

# 勉誠出版

## 日本史研究会 会員様対象 特別割引のご案内

全品**20%OFF**

割引クーポンコード:96632f0a91

(期限:~2021年11月30日)

謹啓

新秋の候、日頃より、弊社をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。  
さて、この度、会員様対象の特別割引セールを行うことになりました。  
当リストの新刊書籍をはじめ、勉誠出版タイトル全品が対象となります。  
この機会にぜひともご購入をご検討くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

### ●ご注文について

- ・弊社ウェブサイトよりご注文を承ります。

<https://bensei.jp>

各種クレジットカード、paypal(クレジットカード・デビットカード)でのご決済が可能です。  
ぜひご利用くださいませ。

割引クーポンコード:96632f0a91 (期限:~2021年11月30日)

**こちらの10ケタの英数字を、必ずご入力ください！**

未入力の場合、割引が適用されず、定価でのご請求となります。ご了承ください。

- ・メール添付、FAX、電話でもお受けしております。  
ご氏名・ご住所・電話番号・公費/私費の区別・公費の場合は必要書類・宛名・日付の有無をお知らせください。
- ・**3,000円以上のお買い上げで、国内全国送料サービス**  
(※ 3,000円未満の場合は、300円を頂戴いたします。海外への配送に関しては、実費を頂戴します)

**\*ウェブサイト以外の方法によるご注文の際は、  
日本史研究会の会員であることをお知らせください。\***

### ●ご連絡先

Mail [info@bensei.jp](mailto:info@bensei.jp)

電話 03-5215-9021

FAX 03-5215-9025

より詳細な「研究書 新刊・近刊のご案内」が  
右のQRコードからダウンロードいただけます。



最新の出版総合目録は  
右のQRコードから  
ダウンロードいただけます。



# 新刊書籍一覧 注文書

\*割引価格は税込です。

ISBN	書名	編著者	出版年	本体価	割引価格	注文数
<b>◆新刊</b>						
31003-7	日本古代の仏教者と山林修行	小林崇仁 著	2021/8	12,000	10,560	
32003-6	中世武家領主の世界—現地と文献・モノから探る	田中大喜 編	2021/8	3,800	3,344	
32011-1	室町文化の座標軸—遣明船時代の列島と文事	芳澤元 編	2021/10	9,800	8,624	
32009-8	日本中世社会と村住人	蔵持重裕 編	2021/10	9,500	8,360	
32001-2	首里城を解く—文化財継承のための礎を築く	高良倉吉 監修/島村幸一 編	2021/9	3,800	3,344	
31001-3	中世寺院の仏法と社会	永村真 編	2021/6	12,000	10,560	
35000-2	古建築調査ハンドブック	山岸常人・岸泰子・登谷伸宏 著	2021/8	1,400	1,232	
22289-7	渤海の古城と国際交流	清水信行・鈴木靖民 編	2021/2	14,000	12,320	
22300-9	中世の博多とアジア	伊藤幸司 著	2021/2	9,500	8,360	
22301-6	戦国合戦図屏風の歴史学	高橋修 著	2021/2	9,000	7,920	
32006-7	戦国時代劇メディアの見方・つくり方—戦国イメージと時代考証	大石学・時代考証学会 編	2021/9	3,200	2,816	
22277-4	古文書への招待	日本古文書学会 編	2021/1	3,000	2,640	
22280-4	増補改訂新版 日本中世史入門—論文を書こう	秋山哲雄・田中大喜・野口華世 編	2021/2	3,800	3,344	
32002-9	近世の村と百姓	渡辺尚志 著	2021/8	9,800	8,624	
32004-3	杉田玄白と江戸の蘭学塾—「天真樓」塾とその門流	片桐一男 著	2021/7	7,000	6,160	
22297-2	鷹狩の日本史	福田千鶴・武井弘一 編	2021/2	3,800	3,344	
32000-5	勤番武士の江戸滞在記—国枝外右馬江戶詰中日記	岩淵令治 編	2021/3	10,000	8,800	
31002-0	創られた由緒—近世大和国諸社と在地神道家	向村九音 著	2021/6	8,000	7,040	
30002-1	書物・印刷・本屋—日中韓をめぐる本の文化史	藤本幸夫 編	2021/6	16,000	14,080	
20077-2	中近世移行期の文化と古活字版	高木浩明 著	2020/12	15,000	13,200	
20078-9	アーネスト・サトウと蔵書の行方—『増補浮世絵類考』の来歴をめぐって	小山騰 著	2020/11	4,200	3,696	
32500-0	東アジアの歌と文字【アジア遊学 254】	真下厚・遠藤耕太郎・波照間永吉 編	2021/3	2,800	2,464	
32501-7	東アジアにおける知の往還【アジア遊学 255】	国文学研究資料館・高麗大学校グローバル日本研究院 共編	2021/3	2,800	2,464	
32502-4	元朝の歴史—モンゴル帝国期の東ユーラシア【アジア遊学 256】	櫻井智美・飯山知保・森田憲司・渡辺健哉 編	2021/6	3,200	2,816	
32503-1	交錯する宗教と民族—交流と衝突の比較史【アジア遊学 257】	鹿毛敏夫 編	2021/7	2,800	2,464	
32504-8	史料が語る東インド航路—移動がうみだす接触領域【アジア遊学 258】	水井万里子・大澤広晃・杉浦未樹・吉田信・伏見岳志 編	2021/7	2,800	2,464	
32505-5	書物のなかの近世国家—東アジア「一統志」の時代【アジア遊学 259】	小田田章・高井康典行・吉野正史 編	2021/8	3,000	2,640	
32506-2	アヘンからよむアジア史【アジア遊学 260】	内田知行・権掌俊 編	2021/9	2,800	2,464	
32507-9	古典は遺産か?—日本文学におけるテキスト遺産の利用と再創造【アジア遊学 261】	Edoardo GERLINI・河野貴美子 編	2021/10	2,800	2,464	
32007-4	怪異学講義—王権・信仰・いとなみ	東アジア怪異学会 編	2021/9	3,200	2,816	
38000-9	日本語文字論の挑戦—表記・文字・文献を考えるための17章	加藤重広・岡増裕剛 編	2021/3	7,000	6,160	
21057-3	大嘗祭—隠された古層	工藤隆・岡部隆志・遠藤耕太郎 編	2021/1	3,800	3,344	
29202-9	和漢朗詠集とその享受 増訂版	三木雅博 著	2021/1	15,000	13,200	
29199-2	中世和歌論—歌学と表現と歌人	中川博夫 著	2020/11	12,000	10,560	
29204-3	真田幸弘点取百韻 翻刻と解題	玉城司・小幡伍 編著	2021/2	9,000	7,920	
27058-4	明治の一発屋芸人たち—珍芸四天王と民衆世界	永嶺重敏 著	2021/1	3,500	3,080	
22299-6	土地の記憶から読み解く早稲田—江戸・東京のなかの小宇宙	ローザ・カーロリ 著/大内紀彦、フィリップ・ドルネット 訳	2021/3	2,700	2,376	
29203-6	観相の文化史	相田満 著	2021/2	9,000	7,920	
22140-1	新装版 唐物と東アジア—舶載品をめぐる文化交流史	河添房江・皆川雅樹 編	2016/2	2,000	1,760	
82254-7	パブリック・ヒストリー入門—開かれた歴史学への挑戦【オンデマンド新版】	菅豊・北條勝貴 編	2021/5	4,800	4,224	
30001-4	大宅壮一文庫解体新書—雑誌図書館の全貌とその研究活用	阪本博志 編	2021/5	3,500	3,080	
32401-0	古文書研究 第91号	日本古文書学会 編	2021/7	3,800	3,344	
20074-1	日本の図書館建築—建築からプロジェクトへ	五十嵐太郎・李明喜 編	2021/3	3,500	3,080	
20285-1	新しい産業創造へ【デジタルアーカイブ・ベーシックス 5】	時実象一 監修/久永一郎 責任編集	2020/5	2,500	2,200	
31000-6	パリ・ノートル＝ダム大聖堂の伝統と再生—歴史・信仰・空間から考える	坂野正則 編	2021/3	8,000	7,040	

22296-5	メソアメリカ文明ゼミナール	伊藤伸幸 監修/嘉幡茂・村上達也 編	2021/1	5,000	4,400
24014-3	絶滅危惧種を喰らう	秋道智彌・岩崎望 編	2021/1	3,200	2,816
◆近刊					
31004-4	慶應義塾図書館蔵 論語疏卷六 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫蔵 論語義疏 影印と解題研究	慶應義塾大学論語疏研究会 編	2021/10	18,000	15,840
31005-1	玄奘三蔵一思想・言説・図像	佐久間秀範・近本謙介・本井牧子 編	2021/11	12,000	10,560
32508-6	資料論がひらく軍記・合戦図の世界—理文融合型資料論と史学・文学の交差【アジア遊学 262】	井上泰至 編	2021/10	3,200	2,816
32509-3	室町前期の文化・社会・宗教—『三国伝記』を読みとく	小助川元太・橋本正俊 編	2021/11	予価 3,000	予価 2,640
32013-5	合戦図—描かれた〈武〉(仮)	中根千絵・薄田大輔 編	2021/11	16,000	14,080
31006-8	中世神道入門 (仮)	伊藤 聡・門屋 温 監修/新井大祐・鈴木英之・大東敬明・平沢卓也 編	2021/11	3,800	3,344
32008-1	従軍日記と報道挿絵が伝える庶民たちの日露戦争	西川武臣 著	2021/11	3,800	3,344
32012-8	英国初期印刷本研究への誘い—書誌学から文学・社会・歴史研究へ	向井剛 著	2021/10	6,000	5,280
32461-4	水門 第三十号 言葉と歴史	水門の会 編	2021/10	3,000	2,640
38002-3	近代日本語教科書語彙索引	伊藤孝行 編	2021/10	8,000	7,040
29612-6	中国史書入門 現代語訳 北斉書	氣賀澤保規 監修/池田恭哉・岡部毅史・梶山智史・倉本尚徳・田熊敬之 訳	2021/11	6,000	5,280
◆既刊					
22279-8	古代の日本と東アジア—人とモノの交流史	鈴木靖民 著	2020/7	10,000	8,800
22278-1	新羅中古期の史的研究	武田幸男 著	2020/7	12,000	10,560
22288-0	金沢文庫古文書 喫茶関係編年資料集	永井晋 編	2020/9	10,000	8,800
22272-9	古文書の様式と国際比較	小島道裕・田中大喜・荒木和憲 編/国立歴史民俗博物館 監修	2020/2	7,800	6,864
20073-4	日本の表装と修理	岩崎奈緒子・中野慎之・森道彦・横内裕人 編	2020/3	7,000	6,160
22268-2	日本建築の歴史的評価とその保存	山岸常人 著	2020/2	17,000	14,960
22276-7	近世大名墓の考古学—東アジア文化圏における思想と祭祀	松原典明 編	2020/6	12,000	10,560
22290-3	生きるための地域史—東海地域の動態から	中村只吾・渡辺尚志 編	2020/10	8,000	7,040
22266-8	日本近世社会と町役人	望月良親 著	2020/2	6,000	5,280
22265-1	近世豪商・豪農の〈家〉経営と書物受容—北奥地域の事例研究	鈴木淳世 著	2020/2	10,000	8,800
22267-5	近世都市の常態と非常態—人為的自然環境と災害	渡辺浩一/マシュー・デーヴィス 編	2020/2	7,000	6,160
20076-5	江戸庶民のまじない集覧—創意工夫による生き方の智恵	長友千代治 著	2020/10	6,000	5,280
22269-9	江戸日本橋商人の記録—〈にんべん〉伊勢屋高津伊兵衛家の古文書	澤登寛聡・筑後則 編	2020/3	11,000	9,680
21056-6	儒教儀礼と近世日本社会—間齋学派の『家礼』実践	松川雅信 著	2020/7	10,000	8,800
22261-3	甦る「豊後切支丹史料」—パチカン図書館所蔵マレガ氏収集文書より	松井洋子・佐藤孝之・松澤克行 編	2020/2	12,000	10,560
29197-8	琉球船漂着者の「聞書」世界—『大島筆記』翻刻と研究	島村幸一 編	2020/3	10,000	8,800
22257-6	歴博甲本洛中洛外図屏風の研究	小谷量子 著	2020/2	10,000	8,800
22292-7	挑発する軍記	大津雄一 著	2020/10	3,800	3,344
22291-0	吉田松陰と学人たち	徳田武 著	2020/10	10,000	8,800
20072-7	医学・科学・博物 東アジア古典籍の世界	陳捷 編	2020/2	12,000	10,560
22286-6	ロマノフ王朝時代の日露交流	東洋文庫・生田美智子 監修/牧野元紀 編	2020/8	3,800	3,344
22275-0	スイス使節団が見た幕末の日本—ブレンワルド日記 1862-1867	横浜市ふるさと歴史財団・ブレンワルド日記研究会 編	2020/6	9,800	8,624
29196-1	幕末明治の社会変容と詩歌	青山英正 著	2020/2	10,000	8,800
22285-9	新彰義隊戦史—附・「彰義隊名鑑」「彰義隊文書」	大藏八郎 編	2020/11	7,000	6,160
23081-6	「本読み」の民俗誌—交差する文字と語り	川島秀一 著	2020/6	3,500	3,080
22263-7	渋沢敬三とアチック・ミュージアム—知の共鳴が創り上げた人文学の理想郷	加藤幸治 著	2020/1	3,500	3,080
20075-8	司書のお仕事 2—本との出会いを届けます【ライブラリーぶっくす】	大橋崇行 著/小木曾真貴 監修	2020/11	1,800	1,584
22264-4	荒れ野の六十年—東アジア世界の歴史地政学	與那覇潤 著	2020/1	3,200	2,816
27055-3	日本画の所在—東アジアの視点から	北澤憲昭・古田亮 編	2020/4	6,500	5,720
22069-5	宋代中国都市の形態と構造	伊原弘 著	2020/6	4,500	3,960
22262-0	描かれたマカオ—オーダーウェント・コレクションにみる東西交流の歴史	貴志俊彦・朱益宜・黄淑薇 編	2020/4	22,000	19,360
21054-2	メディアのなかの仏教—近現代の仏教的人間像	森寛 編	2020/5	7,500	6,600
21055-9	上海におけるプロテスタント—現代中国の都市と宗教空間をめぐる変遷	村上志保 著	2020/5	6,000	5,280

22513-3	ナチズム・ホロコーストと戦後ドイツ 【現代ドイツへの視座—歴史学的アプローチ 2】	石田勇治・川喜田敦子 編	2020/9	6,000	<b>5,280</b>	
22514-0	ドイツ市民社会の史的展開 【現代ドイツへの視座—歴史学的アプローチ 3】	石田勇治・川喜田敦子・平松英人・辻英史 編	2020/9	6,000	<b>5,280</b>	
22719-9	ポストコロナ時代の東アジア—新しい世界の国家・宗教・日常 【アジア遊学 253】	玄武岩・藤野陽平 編	2020/9	2,800	<b>2,464</b>	
22718-2	中世日本の茶と文化—生産・流通・消費をとおして 【アジア遊学 252】	永井晋 編	2020/9	2,800	<b>2,464</b>	
22717-5	仏教の東漸と西漸 【アジア遊学 251】	荒見泰史 編	2020/9	2,800	<b>2,464</b>	
22716-8	酔いの文化史—儀礼から病まで 【アジア遊学 250】	伊藤信博 編	2020/8	2,800	<b>2,464</b>	
22715-1	漢学とは何か—漢唐および清中後期の学術世界 【アジア遊学 249】	川原秀城 編	2020/7	2,800	<b>2,464</b>	
22714-4	明治が歴史になったとき—史学史としての大久保利謙 【アジア遊学 248】	佐藤雄基 編	2020/6	2,800	<b>2,464</b>	
20718-4	書物学 第18巻 蔵書はめぐる—海外図書館の日本古典籍コレクション	編集部 編	2020/7	1,800	<b>1,584</b>	

\* リストに無い書籍をご注文の際は、こちらにお書きください

お申し込みは  
 Web Site●<https://bensei.jp>  
 FAX●03-5215-9025  
 E-mail●[info@bensei.jp](mailto:info@bensei.jp)

**勉誠出版**

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2丁目18-4  
 TEL 03-5215-9021

ご氏名  ご住所 電話番号	<b>備考欄</b> * 公費・私費の区別をお知らせください * 公費の場合には、必要書類・宛名・日付の有無をお書きください

# 新刊のご案内

## 日本古代の仏教者と山林修行

詳細チラシも  
ご覧ください

小林崇仁〔著〕

奈良から平安初期において山林修行を実践した泰澄、報恩、満願、施暁、玄賓、聴福、勝道、徳一、勤操の九名の事績を考察、加えて、山林修行における諸種の形態・様相を諸資料をもとに描き出すことで、日本古代の山林修行の総体を明らかにする。

本体12,000円(+税)・A5判上製・656頁・ISBN31003-7・2021年8月刊行



## 中世武家領主の世界 現地と文献・モノから探る

詳細チラシも  
ご覧ください

田中大喜〔編〕

なぜ武士は地域社会の中核となれたのか。その支配体制はどのように実現・展開されたのか。文献史料、出土遺物そしてフィールドワークによる分析という、多様な研究手法を駆使し、中世日本の特質を明らかにする画期的な一冊。

本体3,800円(+税)・A5判並製・368頁・ISBN32003-6・2021年8月刊行



## 室町文化の座標軸 遣明船時代の列島と文事

詳細チラシも  
ご覧ください

芳澤元〔編〕

公武関係や広域支配、都鄙の行き交い、日明関係のあり方など、諸側面から室町期の画期となった同時代の社会構造・文化背景を、史学・文学研究の第一線の著者による視点から有機的に描き出す必読の書。

本体9,800円(+税)・A5判上製・448頁・ISBN32011-1・2021年10月刊行



## 日本中世社会と村住人

詳細チラシも  
ご覧ください

蔵持重裕〔編〕

中世日本、村に生きた人びとは、権力の支配に接触、抵触しつつ、それぞれの選択と行動をもって、生存の在り方を模索していた。残された史料から、地に足をつけ、働き廻る、生きるためには戦もいとわぬ普通の住民たちの動的な歴史社会像を描き出す。

本体9,500円(+税)・A5判上製・352頁・ISBN32009-8・2021年10月刊行



## 首里城を解く 文化財継承のための礎を築く

詳細チラシも  
ご覧ください

高良倉吉〔監修〕／島村幸一〔編〕

2019年(令和元年)10月31日未明、首里城を火災がおそい、正殿と北殿、南殿が全焼し、その再建・復元は喫緊の課題として、現在検討が進められている。諸分野の第一人者を集結、首里城の歴史と文化を解き明かし、再建に向けた礎を提示する画期的な書。

本体3,800円(+税)・A5判並製・336頁・ISBN32001-2・2021年9月刊行



## 中世寺院の仏法と社会

詳細チラシも  
ご覧ください

永村眞〔編〕

寺院に伝承された史料群を読み解くことにより、中世において寺院や仏法が果たした役割を描き出し、寺院社会の歴史的特質と展開を明らかにする貴重な成果。

本体12,000円(+税)・A5判上製・640頁・ISBN31001-3・2021年6月刊行



## 古建築調査ハンドブック

詳細チラシも  
ご覧ください

山岸常人・岸泰子・登谷伸宏〔著〕

古い建物の保存・利用を考える際に、歴史的・文化的な価値を認識することは不可欠である。寺社・民家など、古建築の歴史的・文化的価値や特質を調査する際の、調査項目・方法の要点を簡潔に解説。文化財調査において、座右に置きたい待望の一冊。

本体1,400円(+税)・A5判並製・38頁・ISBN35000-2・2021年8月刊行



## 渤海の古城と国際交流

清水信行・鈴木靖民〔編〕

冷戦終結に伴い、旧渤海地域における考古学調査・研究が飛躍的に進み、渤海国の政治・行政制度、国際交流の諸相、文化受容の有様などが明らかになってきた。30年に亘る国際共同研究より得た知見から最新の成果を提示する画期的論集。

本体14,000円(+税)・B5判上製・496頁・ISBN22289-7・2021年2月刊行



## 中世の博多とアジア

伊藤幸司〔著〕

中世の博多を特徴づける「貿易」と「宗教」という視角から俯瞰的に考察し、中世日本最大の国際貿易港であり、東アジア海域有数の港湾都市であった博多の実像に迫る。国際交流史、都市史、流通史、宗教史を架橋する新知見を提示する画期的な一書。

本体9,500円(+税)・A5判上製・564頁・ISBN22300-9・2021年2月刊行



## 戦国合戦図屏風の歴史学

高橋修〔著〕

「川中島合戦図屏風」「長篠・長久手合戦図屏風」「関ヶ原合戦図屏風」など、主要作品20数点を、歴史学の視点から丹念に読み解き、図像の特徴や成立背景、写本の普及と合戦像の定着、後世の評価について明らかに。長年にわたる合戦図屏風研究の集大成。

本体9,000円(+税)・A5判上製・528頁・ISBN22301-6・2021年2月刊行



## 戦国時代劇メディアの見方・作り方

戦国イメージと時代考証

大石学・時代考証学会〔編〕

歴史意識・イメージの変遷とそこに影響を与えるポップ・カルチャーの関係にも注目。研究者、漫画家、俳優、ドラマ制作者、市民などのさまざまな視点から、「時代考証」を考察する、歴史ファン必携の一冊。

本体3,200円(+税)・A5判並製・416頁・ISBN32006-7・2021年9月刊行

詳細チラシも  
ご覧ください



## 古文書への招待

日本古文書学会〔編〕

古代から近代にわたる全45点の古文書を丹念に読み解くことで、古文書のもつ意味、それを記述した人びとの個性、書かれた背景をなす歴史的事件を解明。カラー図版をふんだんに配し、全点に翻刻・現代語訳・詳細な解説を付した恰好の古文書入門!

本体3,000円(+税)・B5判並製・176頁・ISBN22277-4・2021年1月刊行

詳細チラシも  
ご覧ください



## 増補改訂新版 日本中世史入門 論文を書こう

秋山哲雄・田中大喜・野口華世〔編〕

歴史学の基本である論文執筆のためのメソッドと観点を日本中世史研究の最新の知見とともにわかりやすく紹介。歴史を学び、考えることの醍醐味を伝授する。2014年5月に刊行の『日本中世史入門—論文を書こう』を大幅に増補改訂!

本体3,800円(+税)・A5判並製・608頁・ISBN22280-4・2021年2月刊行

詳細チラシも  
ご覧ください



## 近世の村と百姓

渡辺尚志〔著〕

近世社会において、百姓たちは領主や他の諸身分、また、周辺の地域社会とどのように関わり、折衝を行ってきたのか。各所に伝わる一点一点の史料を丁寧に読み込むことで、近世日本社会を生き抜いてきた村と百姓の底力を照射する。

本体9,800円(+税)・A5判上製・388頁・ISBN32002-9・2021年8月刊行

詳細チラシも  
ご覧ください



## 杉田玄白と江戸の蘭学塾 「天真樓」塾とその門流

詳細チラシも  
ご覧ください

片桐一男[著]

江戸時代の蘭学者・杉田玄白が開いた蘭学塾「天真樓」に着目、その知られざる活動の実態や教育方針を初解明、後世への影響を初公開史料から明らかにする。蘭学が医者から武家へ、医学から兵学へと推移しながら発展していく、継承の軌跡をたどる。

本体7,000円(+税)・A5判上製・288頁・ISBN32004-3・2021年7月刊行



## 鷹狩の日本史

詳細チラシも  
ご覧ください

福田千鶴・武井弘一[編]

五世紀の古墳時代から江戸幕府瓦解の十九世紀後半に至るまで、鷹狩は権力と深く結びつきながら日本列島において連綿と続けられてきた。日本史を貫く重要な要素でありながら、等閑視されてきた鷹狩の歴史を紐解き、新たな知の沃野を拓く刺激的な一冊。

本体3,800円(+税)・A5判並製・368頁・ISBN22297-2・2021年2月刊行



## 勤番武士の江戸滞在記 国枝外右馬江戸詰中日記

詳細チラシも  
ご覧ください

岩淵令治[編]

天保改革期に白杵藩士が、参勤交代で江戸勤番の間に書き残した一年分の日記史料の全編を初めて活字化。140点に及ぶ挿絵とともに紹介する。新たな江戸像を描き出す貴重史料。

本体10,000円(+税)・A5判上製・512頁・ISBN32000-5・2021年3月刊行



## 創られた由緒 近世大和国諸社と在地神道家

詳細チラシも  
ご覧ください

向村九音[著]

大和国諸社の由緒記を述作した在地神道家、今出河一友。由緒正しき伝の創出を企図した彼が、いかなる方法を用いて、歴史的・文化的正統性を描き出し、またその言説が、地域社会において、どのように受容され、伝播していったのかを探る。

本体8,000円(+税)・A5判上製・288頁・ISBN31002-0・2021年6月刊行



## 書物・印刷・本屋 日中韓をめぐる本の文化史

詳細チラシも  
ご覧ください

藤本幸夫[編]

流通・読者・版権・印刷術・禁書・和刻・出版統制等々を中心に、書物史研究を牽引する珠玉の執筆者35名による知見を集結、394点に及ぶ図版資料を収載した日中韓の知の世界を彩る書物文化を知るためのエンサイクロペディア。

本体16,000円(+税)・B5判上製・896頁・ISBN30002-1・2021年6月刊行

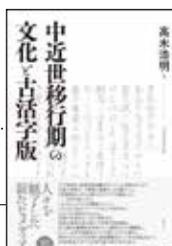


## 中近世移行期の文化と古活字版

高木浩明[著]

多数の現存伝本を持つ下村本『平家物語』、史上稀なる豪華活字版本として製作された「嵯峨本」、古活字版製作をめぐる場と人びとに着目し、長年にわたる古活字版の悉皆調査を行ってきた知見をもとに日本出版史における古活字版の時代を炙り出す。

本体15,000円(+税)・A5判上製・880頁・ISBN20077-2・2020年12月刊行



## アーネスト・サトウと蔵書の行方

『増補浮世絵類考』の来歴をめぐって

小山騰[著]

『増補浮世絵類考』は、作者の斎藤月岑の死後、サトウの所蔵をへて、ケンブリッジ大学図書館にたどり着くまでの期間、どのような変遷をたどったのか。写本として受け継がれた『浮世絵類考』の全般にかかわる問題にも言及しつつ、その謎を追う。

本体4,200円(+税)・四六判上製・464頁・ISBN20078-9・2020年11月刊行



## 東アジアの歌と文字【アジア遊学254】

真下厚・遠藤耕太郎・波照間永吉[編]

東アジアの様々な時代・地域・民族において創作されてきた歌表現の文字資料・伝承記録を、文学・民俗学・文化人類学の分野から検討し、声と文字との共存・影響関係、豊かな歌文化の諸相を明らかにする。

本体2,800円(+税)・A5判並製・208頁・ISBN32500-0・2021年3月刊行



## 東アジアにおける知の往還【アジア遊学255】

国文学研究資料館・高麗大学校グローバル日本研究院[共編]

第一章「書物と文化」、第二章「記録と記憶」、第三章「都市という舞台」の構成により、文学史、美術史、思想史、歴史学、アーカイブズ学など、多面的な視角から、東アジアにおける知の往還を描き出す。

本体2,800円(+税)・A5判並製・200頁・ISBN32501-7・2021年3月刊行



## 元朝の歴史 モンゴル帝国期の東ユーラシア【アジア遊学256】

櫻井智美・飯山知保・森田憲司・渡辺健哉[編]

冷戦終結に伴う史料環境・研究環境の変化により、長足の進展をなしてきたモンゴル帝国史・元朝史研究の成果を受け、元代の政治・制度、社会・宗教、文化の展開の諸相、国際関係などを多面的に考察。さらに元朝をめぐる学問史を検討する。

本体3,200円(+税)・A5判並製・322頁・ISBN32502-4・2021年6月刊行

詳細チラシも  
ご覧ください



## 交錯する宗教と民族 交流と衝突の比較史【アジア遊学257】

鹿毛敏夫[編]

世界に多数存在する異宗教と多民族は、時に激しい対立や交流、融合を繰り返しながら、現代までの歴史を紡いできた。それらは、いかに顕在化しているのか。アジアとヨーロッパの東西における人の移動と民族の越境・交流の実態、ヨーロッパ社会における政治と宗教の関係、個々の人間の想いとその相克、さらにそこから相対化される「国家」意識の具体的深層に迫る。

本体2,800円(+税)・A5判並製・224頁・ISBN32503-1・2021年7月刊行

詳細チラシも  
ご覧ください



## 史料が語る東インド航路 移動がうみだす接触領域

【アジア遊学258】

水井万里子・大澤広晃・杉浦未樹・吉田信・伏見岳志[編]

15世紀末から開拓され、ヨーロッパがアジアと出会った海上路、東インド航路の変遷をたどり、そこに残された史料から、現地の人々の営みや関係性、特に奴隷や移動労働者といった可視化されにくい人々の輪郭を探る。

本体2,800円(+税)・A5判並製・240頁・ISBN32504-8・2021年7月刊行

詳細チラシも  
ご覧ください



## 書物のなかの近世国家 東アジア「一統志」の時代

【アジア遊学259】

小二田章・高井康典行・吉野正史[編]

近代的領域認識の萌芽を体現するこれらの編纂物は、いかなる時代状況において作られたのか。編纂前史から、王朝三代にわたり編纂されたそれぞれの「一統志」のあり方、周辺諸国や後代に与えた影響をも考察し、「一統志の時代」を浮かび上がらせる。

本体3,000円(+税)・A5判並製・288頁・ISBN32505-5・2021年8月刊行

詳細チラシも  
ご覧ください



## アヘンからよむアジア史【アジア遊学260】

内田知行・権寧俊[編]

複雑な交易ネットワークと官僚、商人、兵士、民間人による生産・流通・消費の実態を示し、また、現代にもつながるアヘン中毒、密輸入、腐敗政治といった負の側面にも着目しながら、植民地統治と近代的な経済発展の過程を通史的に描き出す。

本体2,800円(+税)・A5判並製・256頁・ISBN32506-2・2021年9月刊行

詳細チラシも  
ご覧ください



## 古典は遺産か？ 【アジア遊学261】

日本文学におけるテキスト遺産の利用と再創造

Edoardo GERLINI・河野貴美子[編]

詳細チラシも  
ご覧ください

古典を「遺産」という概念から捉えかえし、所有性、作者性、真正性の観点からテキストそのものや、それにまつわる行為や意識を歴史的に考察。文字と書物の文化研究を新たなステージへと領導する画期的成果。

本体2,800円(+税)・A5判並製・240頁・ISBN32507-9・2021年10月刊行



## 怪異学講義 王権・信仰・いとなみ

東アジア怪異学会[編]

詳細チラシも  
ご覧ください

古記録や歴史書、説話、伝承、絵画といったあらゆる資料を渉猟し、王権・政治・祭祀・信仰・寺社・都市・村・生活・暮らしなど多様な視点から「怪異」とそれに対する人々の営みを読み解いた画期的入門書。

本体3,200円(+税)・四六判並製・416頁・ISBN32007-4・2021年9月刊行

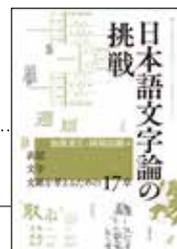


## 日本語文字論の挑戦 表記・文字・文献を考えるための17章

加藤重広・岡墻裕剛[編]

ひらがな・カタカナ・漢字・ローマ字等、世界的にも珍しい多文字種環境を有する日本語。古代から現代までを視野に「書く」「読む」「学ぶ」「残す」という文字の諸機能に着目し、日本語における「文字論」の豊穡な世界を示す初めての一冊。

本体7,000円(+税)・A5判並製・432頁・ISBN38000-9・2021年3月刊行



## 大嘗祭 隠された古層

工藤隆・岡部隆志・遠藤耕太郎[編]

アニミズムの原理をおおもととする大嘗祭を、どのように今の時代の価値観の中に位置づけたいのか。大嘗祭の本質の側から、今とこれからの時代の大嘗祭、ひいては天皇制のあり方を考えるための視座を与える一冊。

本体3,800円(+税)・四六判並製・296頁・ISBN21057-3・2021年1月刊行

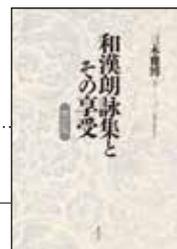


## 和漢朗詠集とその享受 増訂版

三木雅博[著]

『和漢朗詠集』の成立と享受を論じることにより、和の世界が有していた流れと漢の世界からもたらされた流れが交錯し、新しい流れが生み出されていく我が国の文化の創造の過程で現れた、一つの典型的な現象を明らかにしていく。増補・改訂による復刊。

本体15,000円(+税)・A5判上製・480頁・ISBN29202-9・2021年1月刊行



## 中世和歌論 歌学と表現と歌人

中川博夫[著]

和歌と勅撰集のあり方を方向づけた俊成や定家。彼らの和歌観を直接・間接に選択・継承し、和歌のあり方を模索していった為家や京極派。王朝和歌から連なる中世和歌の史的変遷を丁寧に紐解き、個々の特質と連続性を多面的に明らかにする待望の一書。

本体12,000円(+税)・A5判上製・496頁・ISBN29199-2・2020年11月刊行



## 真田幸弘点取百韻 翻刻と解題

玉城司・小幡伍[編著]

真田宝物館(長野市松代町)が収蔵する松代藩第六代藩主・真田幸弘(菊貫)が同座した点取俳諧資料集『菊の分根』の百韻・五十八巻を原本に忠実に翻刻。詳細な解題・解説を附す。国語学、地方と中央を結ぶ歴史学、風俗研究等に大きく寄与する一書。

本体9,000円(+税)・A5判上製・308頁・ISBN29204-3・2021年2月刊行



## 明治の一発屋芸人たち 珍芸四天王と民衆世界

永嶺重敏 [著]

「ステテコ」の円遊、「ヘラヘラ」の万橋、「ラッパ」の円太郎、「テケレツ」の談志。全国的な熱狂を引き起こしたにもかかわらず、歴史の狭間に消えた「珍芸四天王」たちの実像に迫る！明治前期の民衆世界を炙り出す刺激的な一冊。

本体3,500円(+税)・四六判上製・284頁・ISBN27058-4・2021年1月刊行



## 土地の記憶から読み解く早稲田

江戸・東京のなかの小宇宙

ローザ・カーロリ [著] / 大内紀彦、フィリッポ・ドルネッティ [訳]

早稲田という「小宇宙（マイクロコスモ）」から、江戸・東京という「大宇宙（マクロコスモ）」を描く。膨大な文献・史料・地図の博搜と現地踏査から土地の文化的・歴史的価値を発見する、もうひとつの江戸・東京学。

本体2,700円(+税)・四六判並製・272頁・ISBN22299-6・2021年3月刊行



## 観相の文化史

相田満 [著]

人相占いに代表される「観相」の知識体系が、文学・絵画等の表現活動にどのような影響を及ぼしてきたか。古典的相書の記述と関連資料の分析により「忘れられた日本の学問」の具体相の把握、継承性と応用の可能性を追究することを試みる。

本体9,000円(+税)・A5判上製・280頁・ISBN29203-6・2021年2月刊行



## 新装版 唐物と東アジア 舶載品をめぐる文化交流史

河添房江・皆川雅樹 [編]

好評につき重版!

唐物交易の時代的変遷とその実態からみた異国との交流史、唐物を結節点とする漢と和の関係性への分析、人物とその権力の表象としての唐物の関係性について美術品や歴史資料のみならず、文学資料も用いて明らかにする。

本体2,000円(+税)・A5判並製・208頁・ISBN22140-1・2016年2月刊行



## パブリック・ヒストリー入門 開かれた歴史学への挑戦

【オンデマンド新版】

菅豊・北條勝貴 [編]

好評につき重版!

歴史学や社会学、文化人類学のみならず、文化財レスキューや映画製作等、さまざまな歴史実践の現場より、歴史を考え、歴史を生きる営みを紹介。人間と歴史との関わりを考え、日常に活かしていくための知識と方法を伝える日本初の概説書!

本体4,800円(+税)・A5判並製・カラー8頁+本文504頁・ISBN82254-7・2021年5月刊行



## 大宅壮一文庫解体新書 雑誌図書館の全貌とその研究活用

阪本博志 [編]

大宅壮一(1900-1970)が収集した膨大な雑誌のコレクションを基礎として設立された大宅壮一文庫。2021年、開設から50年を迎える大宅壮一文庫について、概要から、その誕生の歴史、そして文庫を活用した研究の実践例まで、すべてを網羅した解説書。

本体3,500円(+税)・A5判並製・300頁・ISBN30001-4・2021年5月刊行



## 古文書研究 第91号

日本古文書学会 [編]

古文書学の最前線を伝える学術雑誌。論文、史料紹介・追悼文・古文書めぐり、随筆、書評と紹介などを収録。【執筆者】佐藤亜莉華・松井直人・村上絢一・金子修一・山内譲・遠藤珠紀・丸島和洋・桐田貴史・湯川敏治・木下昌規・荊木美行・武井紀子・徳竹亜紀子・近藤好和・松本郁代・高銀美・黒嶋敏・田部井隼人・福井淳・佐々木千恵・荒木和憲

本体3,800円(+税)・B5判並製・162頁・ISBN32401-0・2021年7月刊行



## 日本の図書館建築 建築からプロジェクトへ

五十嵐太郎・李明喜[編]

「箱モノ」から、コミュニケーションなどを重視した「有機的なモノ」へと変化を遂げた日本の公共図書館。1950年代から、2020年代の現在まで、全国各地の特色ある公共図書館を紹介し、図書館建築の歴史的流れを追った一冊。カラー図版200点以上！

本体3,500円(+税)・A5判並製・336頁・ISBN20074-1・2021年3月刊行



## 新しい産業創造へ【デジタルアーカイブ・ベーシックス5】

時実象一[監修]／久永一郎[責任編集]

デジタルアーカイブが産業の未来を切り拓く！日本の企業はデジタルアーカイブをどのように活用し、それをビジネスに昇華しているのか？「デジタルアーカイブ・ベーシックス」全5巻、ここに完結！

本体2,500円(+税)・A5判並製・288頁・ISBN20285-1・2021年5月刊行



## パリ・ノートル＝ダム大聖堂の伝統と再生

歴史・信仰・空間から考える

坂野正則[編]

複数の年代にまたがる絵画作品、図面、大聖堂の写真といった豊富なビジュアル資料とともに、キリスト教神学・建築史学・西洋史学・文化財学による領域横断的なアプローチにより、「ノートル＝ダム大聖堂」の歴史、その復興・再生を考察する。

本体8,000円(+税)・A5判上製・288頁・ISBN31000-6・2021年3月刊行



## メソアメリカ文明ゼミナール

伊藤伸幸[監修]／嘉幡茂・村上達也[編]

メソアメリカ文明を研究する、総執筆者22名の気鋭の研究者たちが、各自が専門とする地域や分野について詳細に記述した初めての概説書。37本のコラムを収録し、代表的な遺跡や事項を、簡潔に解説。

本体5,000円(+税)・A5判並製・530頁・ISBN22296-5・2021年1月刊行



## 絶滅危惧種を喰らう

秋道智彌・岩崎望[編]

野生動物を絶滅から救うために、我々は何をすべきなのか。野生動物を「喰らう」問題、「装う」問題、そしていかにして野生動物を絶滅から救うかについての方策とよりどころとなる思想について多角的な視点から論じる。

本体3,200円(+税)・A5判並製・264頁・ISBN24014-3・2021年1月刊行



# 近刊のご案内

\* 表示価格には別途消費税がかかります。  
\* ISBNは978-4-585を省略しています。

## 慶應義塾図書館蔵 論語疏卷六

## 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫蔵 論語義疏 影印と解題研究

詳細チラシも  
ご覧ください

近刊

慶應義塾大学論語疏研究会[編]

最古級の『論語』の注釈書である『論語疏』および善本慶應義塾大学斯道文庫蔵『論語義疏』の全編もフルカラー初影印し提供。斯界の第一線をリードする研究者による詳細な解題・翻刻・校勘記を備えた決定版。

本体18,000円(+税)・A4判上製函入・カラー336頁+モノクロ144頁・ISBN31004-4・2021年10月刊行予定

NO IMAGE

## 玄奘三蔵 思想・言説・図像

佐久間秀範・近本謙介・本井牧子[編]

玄奘の求法の道行はいかなるものであったのか。そして、その思想はどのように形成され、伝えられていったのか。仏教学・文学・美術など多角的な視点から玄奘の、そして、玄奘にまつわる思想・言説・図像を読み解く画期的論集。

本体12,000円(+税)・A5判上製・約512頁・ISBN31006-8・2021年11月刊行予定

近刊

NO IMAGE

## 資料論がひらく軍記・合戦図の世界

理文融合型資料論と史学・文学の交差 【アジア遊学262】

井上泰至[編]

電子顕微鏡調査、クラスター分析などの理工学的手法を利用した研究、文学・史学・美学の枠組みを飛び越える新たな資料論など、諸学の交差領域である合戦図・軍記を中心に、最先端の研究状況とこれからの課題を指し示す画期的成果。

本体3,200円(+税)・A5判並製・236頁・ISBN32508-6・2021年10月刊行予定

詳細チラシも  
ご覧ください

近刊



## 室町前期の文化・社会・宗教

『三国伝記』を読みとく 【アジア遊学263】

小助川元太・橋本正俊[編]

作品としての『三国伝記』を再評価し、同時に、周辺作品や同時代資料から窺えるこの時代の人々の国際感覚や、彼らの置かれていた宗教的環境、社会的状況や文化的状況などを照らし出し、『三国伝記』という作品が生まれた室町前期という時代を捉え直す。

予価本体3,000円(+税)・A5判並製・280頁・ISBN32509-3・2021年11月刊行予定

近刊

NO IMAGE

## 合戦図 描かれた〈武〉(仮)

中根千絵・薄田大輔[編]

中世から近世における主要な合戦図38作品をフルカラーで紹介。さらに、美術・文学・歴史などの観点より、合戦図の展開を解き明かす、多数の図版を盛り込んだ12本の論考を収録。「合戦図」をめぐる研究の最先端を知ることができる決定版。

本体16,000円(+税)・B5判上製・約440頁・ISBN32013-5・2021年11月刊行予定

近刊

NO IMAGE

## 中世神道入門(仮)

伊藤聡・門屋温[監修] 新井大祐・鈴木英之・大東敬明・平沢卓也[編]

「中世神道」の見取り図を、「神道の諸派」「基本的な概念」「中世の神々」「神話モチーフ」「神道をめぐる人々」「イメージ」「神道書」などテーマごとに立項し、第一線で活躍する研究者が、多数の図版とともにわかりやすく解説する決定版！

本体3,800円(+税)・A5判並製・380頁・ISBN31006-8・2021年11月刊行予定

近刊

NO IMAGE

## 従軍日記と報道挿絵が伝える 庶民たちの日露戦争

西川武臣[著]

日露戦争の旅順攻囲戦に従軍した上等兵の出兵、戦地での戦闘と苦難、凱旋帰郷までを詳細に記述した、一兵士が記録したものとしては他に類を見ない豊富な内容を持つ従軍日記の全編を活性化し紹介。さらに「征露図会」から関連記事を抜粋。

本体3,800円(+税)・A5判並製・240頁・ISBN32008-1・2021年11月刊行予定

詳細チラシも  
ご覧ください

近刊



# 英国初期印刷本研究への誘い

書誌学から文学・社会・歴史研究へ

向井剛〔著〕

『アーサーの死』・『セントオルバンズの手紙』・『トロイルスとクリセイデ』など10の実例をとおり、タイトルページの変遷、版の違い、本文異同と派生などを丹念に検討し、書誌学の立場から分析・解明する。文学・文化・歴史研究の新たな領域をひらく快著。

本体6,000円(+税)・A5判上製・250頁・ISBN32012-8・2021年10月刊行予定

詳細チラシも  
ご覧ください

近刊



# 水門 第三十号 言葉と歴史

水門の会〔編〕

小特集は、「伝・賛と肖像の文化史」と題し、「伝」と「肖像」にかかわる共同研究の成果を示す。新たに「賛」を視野に入れることによって、時代とジャンルを越えた「伝・賛と肖像」研究の可能性を問う。

本体3,000円(+税)・A5判並製・288頁・ISBN32461-4・2021年10月刊行予定

詳細チラシも  
ご覧ください

近刊



# 近代日本語教科書語彙索引

伊藤孝行〔編〕

近代日本語教科書10種15冊の本文全文をテキスト化し、索引の見出し語として約25,000語を採用。日本語史・日本語教育史をはじめとする諸分野研究に資する、近代語資料の隙間を埋める一冊。

本体8,000円(+税)・A5判並製・376頁・ISBN38002-3・2021年10月刊行予定

詳細チラシも  
ご覧ください

近刊



# 中国史書入門 現代語訳 北齊書

氣賀澤保規〔監修〕／池田恭哉・岡部毅史・梶山智史・倉本尚徳・田熊敬之〔訳〕

異民族が中原に進出し、群雄割拠した南北朝時代。王朝が成立しては滅亡を繰り返した時代。日本でも有名な雅楽「蘭陵王入陣曲」、その蘭陵王・高長恭が活躍した北齊の正史『北齊書』を本邦初現代語訳！原文と現代語訳を対照できる。

本体6,000円(+税)・A5判並製・680頁・ISBN29612-6・2021年11月刊行予定

詳細チラシも  
ご覧ください

近刊



# 日本古代の 仏教者と山林修行

小林崇仁【著】

外来の宗教である仏教は、その伝来より、  
広く日本の社会・文化に影響を与えてきた。

なかでも、山林に分け入ったの修行は、

仏教創始以来の伝統として時代を通じて行われてきた。

仏教伝来から間もない古代日本において、

山林修行はどのように行われ、

どのような宗教的意義を有していたのか。

奈良から平安初期において山林修行を実践した

泰澄、報恩、満願、施暁、玄賓、聴福、勝道、徳一、勤操の

九名の事績を考察、

加えて、山林修行における諸種の形態・様相を

諸資料をもとに描き出すことで、

日本古代の山林修行の総体を明らかにする。

## 【著者紹介】

小林崇仁（こばやし・そうじん）

蓮花寺佛教研究所研究員、真言宗智山派平福寺住職。

共著に『頼瑜撰』真俗雜記問答鈔の研究（ノンブル社、二〇二二年）。主な論文に「諏訪の神宮寺」（福田晃・徳田和夫・二本松康宏編『諏訪信仰の中世——神話伝承——歴史』三弥井書店、二〇一五年）、「勝道上人の生涯」（『山岳修験』第六〇号、二〇一七年）、「東草集」に見る根来寺の追善儀礼」（『佛教文学』第四二号、二〇一七年）などがある。

## 【目次】

序論

### 第一部●山林修行の先駆者たち

第一章 泰澄——泰澄伝に見る山林修行者像——

第二章 報恩——報恩伝の史実性——

第三章 満願——神宮寺建立の背景——

### 第二部●朝廷による山林修行者への信仰と支援

第一章 施暁——施暁の奏上と梵釈寺の造営——

第二章 玄賓——嵯峨天皇からの殊遇——

第三章 聴福——玄賓との類似性——

### 第三部●山林修行者による社会的実践行

第一章 勝道——日光山開山の意義——

第二章 徳一——東国に垂迹した菩薩——

第三章 勤操——官大寺僧の幅広い実践行——

### 第四部●山林修行の種々相

第一章 斗敷——勝道と徳一と空海の共通点——

第二章 乞食と蔬食——山林修行の経済基盤——

第三章 道俗相集——山林寺院での諸活動——

結論

あとがき／初出一覧／索引



定価 二二,二〇〇円(税込)

(本体二二,〇〇〇円)

A5判上製カバー装・六五六頁

二〇二二年八月刊行

ISBN978-4-585-31003-7 C3015

書名	部数
日本古代の仏教者と山林修行 小林崇仁【著】	部
定価13,200円(税込)・本体12,000円 A5判・上製カバー装・656頁 2021年8月刊行 ISBN978-4-585-31003-7 C3015	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

# 中世武家領主の

# 世界

## 現地と 文献・ モノから 探る



なぜ武士は  
地域社会の中核となれたのか——？

鎌倉末〜南北朝期にかけて、東国に端を発した武士団は、その本拠地を東西にひろげ、各所において地域社会との密接な関係を築き上げていく。武士集団が地域における社会編成の中核を担い、交通・流通の要衝を押さえながら、政治経済のイニシアティブを取るといったことも稀ではなかった。中世日本の重要なアクターたる武士団は、どのような実態をもって地域社会へ受け入れられていったのか、その支配体制はどのように実現・展開されたのか。文献史料、出土遺物そしてフィールドワークによる分析という、多様な研究手法を駆使し、中世日本の特質を明らかにする画期的な一冊。

### 目次

#### 第一部◎武家領主の地域支配の諸相

材木の生産・流通と武家領主 西田友広  
西遷御家人内田氏の本拠景観と高津川流域  
——現地調査の聞き書きと文献史料から 渡邊浩貴  
中世後期石見国長野荘をめぐる諸武家領主の動向 中司健一  
東国地頭支配の受容と排除——肥後国人吉荘と肥前国彼杵荘 清水亮  
中世武士団における一族・被官の西遷  
——肥前千葉氏を事例として 湯浅治久  
紀伊国における武家領主の地域支配と荘園領主 高木徳郎

#### 第二部◎地域の港湾と武家領主

石見国高津川・益田川河口域の集散地と武家領主 田中大喜  
河口の港が果たした役割——瀬戸内海と日本海を比較して 鈴木康之  
そこに港は存在したのか？——伝承からたどる中世の益田 松田睦彦  
遠江国笠原荘の「浦」にみる中世の港湾と海村 貴田潔

#### 第三部◎モノからみる武家領主

陶磁器からみた中世益田 村木二郎  
朝鮮初期における陶磁器の生産と貢納・流通 荒木和憲  
遺物からみた武家領主の本拠  
——静岡県の主要遺跡の遺物分析から 池谷初恵  
中世後期の領主の好み——出土品と財産目録から 水澤幸一  
あとがき 田中大喜／執筆者一覧

## 田中大喜

(たなか ひろき) 一九七二年生まれ。国立歴史民俗博物館・総合研究大学院大学准教授(併任)。専門は日本中世史(中世武士団・在地領主研究)。「古文書の様式と国際比較」(共編著、勉誠出版、二〇二〇年)、「増補改訂新版 日本中世史入門——論文を書こう」(共編著、勉誠出版、二〇二二年)などがある。

定価 四、二八〇円(税込)

(本体 三、八〇〇円)

A5判並製カバー装・三六八頁

二〇二二年八月刊行

ISBN978-4-585-32003-6 C1021

書名	部数
中世武家領主の世界 現地と文献・モノから探る 田中大喜 [編]	部
ご注文先ご住所 (通信欄)	部

定価 4,180円・本体3,800円

A5判並製カバー装・368頁  
2021年8月刊行  
ISBN978-4-585-32003-6 C1021

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。  
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX◎03-5215-9025

芳澤元…………… [編]

# 室町文化の座標軸

## 遣明船時代の列島と文事

金閣・銀閣の煌めきに隠れた「日本文化」の分水嶺を探る。

大きく飛躍した21世紀の室町時代研究が向かう次なるステージは、現代日本の起源といわれた「室町文化史」の検証、再構築にある。義満・義持・義教の執政期である応永・永享年間を中心に隆盛した、能・連歌・床の間・水墨画……。その創造を支えたものとは何だったのか。都鄙の境を越え、海域を渡った人びとが残した足跡、ことば、思考を、歴史学・文学研究の第一線に立つ著者たちが豊かに描き出す必読の書。

### 目次

まえがき ● 芳澤元

### 総論

室町文化論構想ノート——都鄙関係・境界地域からの見直し ● 芳澤元

### 第一部 文化を育てる社会構造

「室町時代」の地域性 ● 山田徹  
室町期の大名被官と都鄙の文化的活動 ● 川口成人  
室町期東国の政治・社会秩序 ● 江田都夫  
足利將軍家の規範先例——「義満型」と「義持型」なる二類型と応永という時代 ● 石原比伊呂

### 第二部 室町文化の知識の源泉

年号「応永」考 ● 臼井和樹  
句題和歌と唐宋詩——出典から見た問題 ● 小川剛生  
日本中世禅林における中国文学受容について——応永年間を中心に ● 太田亨  
世阿弥の能楽論における朱子学の影響——「大学」「中庸」の引用及び世阿弥の心身論・抽象論の形成 ● 重田みち

### 第三部 諸芸の展開とその時代

足利義持の和歌・連歌とその周辺 ● 山本啓介  
応永後期の能と演者 ● 中嶋謙昌  
後土御門天皇と連句文芸——文芸を導く天皇 ● 小山順子  
連歌師宗祇、日明勘合貿易関与説の疑点 ● 廣木一人  
宗祇旧知の入明僧「吉祥院」とは誰か ● 橋本雄  
あとがき ● 芳澤元

### 【編者紹介】

**芳澤元**（よしざわ はじめ）  
明星大学人文学部准教授。  
専門は日本中世史、仏教文化史。  
著書に『日本中世社会と禅林文芸』（吉川弘文館、二〇一七年）、『足利將軍と中世仏教』（相国寺教化活動委員会、二〇一九年）、論文に『中世後期の社会と在俗宗教』（『歴史学研究』97号、二〇一八年）、『梅尾茶・醍醐茶の評判』（十四世紀高山寺の喫茶文化）（永井晋編『中世日本の茶と文化——生産・流通・消費をとらえて』アジア遊学252、勉誠出版、二〇二〇年）などがある。

定価 10,780円(税込)  
本体 9,800円  
A5判上製カバー装・448頁  
ISBN978-4-585-32011-1 C3021  
2021年10月刊行

書名	部数
<b>室町文化の座標軸</b> 遣明船時代の列島と文事 芳澤元 [編]	定価 10,780円(税込) / 本体9,800円 A5判上製カバー装・448頁 2021年10月刊行 ISBN978-4-585-32011-1 C3021
ご送付先ご住所（通信欄）	

# 日本中世社会と村住人

蔵持重裕【編】



## 権力に対峙した人びとは 如何にしたたかに生き抜いたのか

中世日本、村に生きた人々は、  
権力の支配に接触、抵触しつつ、  
それぞれの選択と行動をもって、  
生存の在り方を模索していた。  
残された史料を丁寧に読み込むことにより、  
地に足をつけ、働き廻る、  
活きるためには戦もいとわな  
普通、の住民たちの動態的な歴史社会像を描き出す。

### 【编者紹介】

蔵持重裕(くらもちしげひろ)

立教大学名誉教授。専門は日本中世史。  
著書に『日本中世村落社会史の研究』(校倉書房、一九九六年)、『中世村落  
の形成と村社会』(吉川弘文館、二〇〇七年)、編著に『中世の紛争と地域社  
会』(岩田書店、二〇〇九年)などがある。

### 【目次】

はじめに：蔵持重裕

序論 日本中世村研究の道径：蔵持重裕

#### 一◎村の実像をもとめて

鎌倉期「百姓中」の出現：櫻井 彦  
中世利根川の築堤と堤用途

——「万福寺百姓等申状」の検討：根本 崇  
戦国期の仏神田と領主・地下

——越前国池田荘を事例として：窪田涼子  
戦国期恵林寺の寺領と生業構成：則竹雄一

若狭湾沿岸における海村の生業競合と地域社会  
——常神半島・三方五湖をとりまく村々の地域的分業：長谷川裕子

#### 二◎領主支配と村の動向

撰関家領近江国信楽荘における領域と村落：朝比奈 新  
室町期守護権力による軍役・陣夫役の賦課

——播磨国矢野荘を事例として：徳永裕之  
室町末期武家領主による所領支配の実態

——長尾忠景を事例に：黒田基樹

#### 三◎境界と村の力

村の自立と紛争・内乱——紀伊国三上荘願成寺と西畑村：小林一岳  
中近世移行期の浅利氏と比内の村々

——陸奥・出羽国境の境目争い：遠藤ゆり子  
近世初期領国境目地域における庄屋と百姓鉄砲：稲葉継陽

あとがき：小林一岳・櫻井 彦

定価 一〇、四五〇円(税込)

(本体九、五〇〇円)

A5判上製カバー装・三五二頁

二〇二一年十月刊行

ISBN978-4-585-32009-8 C3021

書名

部数

## 日本中世社会と村住人

蔵持重裕【編】

定価 10,450円(税込)・本体9,500円

A5判・上製カバー装・352頁

2021年10月刊行

ISBN978-4-585-32009-8 C3021

部

ご送付先ご住所(通信欄)

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。  
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX◎03-5215-9025

# 首里城を解く

高良倉吉 [監修]  
島村幸一 [編]

文化財継承のための礎を築く

## 首里城を歴史的・文化的に 考えるために

中国や日本、東南アジアなどとの海を越えた交流により独自の文化を築いた琉球王国。首里城は、その政治・外交の中心を担い、琉球王国の文化の豊穡さを体現する一大建造物である。数度の火災、琉球処分や沖縄戦等、歴史の荒波のなかでその大部分を損壊することとなったが、数多の人びとの尽力により、首里城復元事業が推進され、二〇〇〇年には世界遺産として登録されることとなった。

しかし、二〇一九年(令和元年)十月三十一日未明、首里城を火災がおそい、正殿と北殿、南殿が全焼し、その再建・復元は喫緊の課題として、現在検討が進められている。失われた首里城を取り戻すために、いま、必要な知識は何か。

考古学・歴史学・建築学・文学等、諸分野の第一人者を集結、首里城の歴史と文化を解き明かし、再建に向けた礎を提示する画期的な書。

### 【監修者・編者紹介】

**高良倉吉** (たからくらよし)

琉球大学名誉教授・元沖縄県副知事。専門は琉球王国史。首里城復元の委員。著書に『琉球王国史の探求』(榕樹書林、二〇一一年)など。

**島村幸一** (しまむらこういち)

立正大学文学部教授。専門は琉球文学・琉球文化史。著書に『琉球文学の歴史叙述』(勉誠出版、二〇一五年)、『琉球船漂着者の「聞き書」世界―「大島筆記」翻刻と研究』(編著、勉誠出版、二〇二〇年)など。

### 【目次】

序文：島村幸一  
首里城を創る ― 正殿を中心に…高良倉吉

#### ●考古学から

首里城の原点についての一考察  
― グスク時代の遺跡で見られる隔離空間を再考する…山本正昭  
出土陶磁器から見た首里グスク…瀬戸哲也  
「コラム」トカラ、三島の城郭遺跡…伊藤慎二  
「コラム」宮古・八重山諸島のグスク時代石積遺構について  
…久貝弥嗣

#### ●歴史学から

古琉球期における首里城の様相と変遷…上里隆史  
「コラム」絵図から見た首里城…外間政明  
近世琉球期の首里城― 儀礼空間としての首里城…麻生伸一  
「コラム」首里城で働く人々  
― 庖丁人と琉球の料理について…山田浩世  
近代の首里城 ― 県民に開かれた御城…喜納大作

#### ●文学・芸能から

祭場としての首里グスク…島村幸一  
芸能の舞台としての首里城…茂木仁史  
漢詩に詠まれた首里城…高津孝  
「コラム」首里グスクの御内原…島村幸一  
散文に描かれた首里グスク…仲程昌徳  
短歌のなかの首里城…屋良健一郎

#### ●建築学・工芸から

中華礼制蕃国礼執行装置としての首里城…伊從勉  
首里グスクの「異産至宝」…上江洲安亨  
首里グスクを中心とした衣文化  
― 三山時代から近世琉球国後期頃まで…久貝典子

首里城を知るための〈入門〉 十冊…輝広志  
あとがき…島村幸一

定価 **4,180** 円(税込)  
[本体3,800円]  
A5判・並製カバー装・336頁  
ISBN978-4-585-32001-2 C1020  
2021年9月刊行

書名	部数
<b>首里城を解く</b> 文化財継承のための礎を築く 高良倉吉 [監修] / 島村幸一 [編]	定価 <b>4,180</b> 円(税込) [本体3,800円] A5判・並製カバー装・336頁 ISBN978-4-585-32001-2 C1020 2021年9月刊行
ご送付先ご住所 (通信欄)	

# 中世寺院の仏法と社会

永村 眞【編】

中世日本において寺院は、宗教的な施設のみならず、

貴顕や武士等、様々な人々が行き交う、

政治・経済・文化形成にも大きな影響を有した場であった。

しかし、諸寺院内部で伝持されてきた史料群は、

その特質からアクセスが容易ではなく、

編者らによる寺院史料の調査・研究の方法論の構築により、

近年、大きな研究の進展を見せるようになった。

畿内近国、関東に所在する諸寺院に伝来する

史料群の博搜により、寺内・寺外の僧俗の

社会的かつ宗教的な関わりをなかで、

「日本仏教」を形づくる多彩な仏法とその発展を実現した

寺院社会の構造と思想的背景を立体的に描き出し、

中世寺院の歴史的特質と展開を明らかにする貴重な成果。

## 中世日本を読み解くための必読の書

### 【編者紹介】

永村 眞(ながむら まこと)

一九四八年生まれ。日本女子大学名誉教授、人間文化研究機構理事、東大寺学術顧問。専門は日本中世史・中世仏教史。  
著書に『中世東大寺の組織と経営』(塙諸房、一九八九年)、『中世寺院史料論』(吉川弘文館、二〇〇〇年)、『中世醍醐寺の仏法と院家』(吉川弘文館、二〇二〇年)などがある。

### 【目次】

はしがき…永村 眞

#### I 醍醐寺の法流と修学

中世醍醐寺の顕・密「聖教」と法儀…永村 眞

南北朝内乱と清浄光院房玄…石田浩子

南北朝から室町前期における理性院流と

太元帥法別当職の相承

—理性院宗助と大覚寺證菩提院光覚の対立—…佐藤亜莉華

醍醐寺三宝院門跡満済の教学活動…姜 錫正

醍醐寺・根来寺と田舎本寺との寺僧交流

—尾張国万徳寺を通して—…藤井雅子

「義演准后日記」とその紙背文書…関口真規子

修法と秘号—五大虚空藏法を通して—…井上清子

醍醐寺所蔵「野月」と松橋流秘点…高橋恵美子

#### II 寺院の法会と社会

中世南都の法華会…高山有紀

「春日権現験記絵」の編纂者…坪内綾子

中世東寺の修学活動—西院と観智院—…西 弥生

十五世紀における北野社領西京と西京神人…三枝暁子

春日社神供備進と興福寺学侶…高山京子

室町將軍家の比丘尼御所と根本所領…小谷量子

#### III 中世の仏法と寺院

撰関期・院政期における聖徳太子信仰と女性

—四天王寺に集った女性たち—…榊原史子

鎌倉前期寺院社会の禪宗理解…矢野立子

中世「律院」と「結界」…飯田晶子

中世鑊阿寺の寺内組織…中田 愛

雑賀衆の戦いと鈴木孫一…三浦早織

あとがき…藤井雅子

定価 二二,二〇〇円(税込)  
(本体二一,〇〇〇円)

A5判上製カバー装・六四〇頁

二〇二一年五月刊行

ISBN978-4-585-31001-3 C3015

部 数

定価 13,200円(税込)・本体12,000円

A5判・上製カバー装・640頁

2021年5月刊行

ISBN978-4-585-31001-3 C3015

部

## 中世寺院の仏法と社会

永村 眞【編】

ご送付先ご住所(通信欄)

山岸常人・岸 泰子・登谷伸宏〈著〉

# 古建築調査 ハンドブック

定価1,540円(税込)

本体1,400円  
A5判・並製・38頁・2021年7月刊行  
ISBN978-4-585-35000-2 C0052

【出荷にお時間をいただく】  
場合があります

私たちの身のまわりには多数の古建築がある。

過去に建てられた建物は、歴史的・文化的に価値があるだけでなく、我々の生活環境を形成する重要な要素として存在している。

古い建物を文化財として保存してゆくにせよ、改修して使い続けるにせよ、その建物の歴史的・文化的な価値を認識しておくことは不可欠である。

それでは、そのための調査はどのように行うのか。

寺社・民家など、古建築の歴史的・文化的価値や特質を調査する際の、調査項目・方法の要点を簡潔に解説。

歴史的な建物の調査において、  
常に座右に置いておきたい待望の一冊。

## 〈目次〉

- 1 古建築調査の目的・手順・内容
- 2 現地調査(1)——調査票・実測図の作成と写真撮影
- 3 現地調査(2)——棟札・史料の調査
- 4 調査報告書の作成

## COLUMN

- 1 調査に必要な道具・服装
- 2 建設年代の判定と編年指標
- 3 図面の浄書の工夫
- 4 寸法の測り方
- 5 寺社建築に必要な写真
- 6 現地調査後の史料調査——報告書作成にむけての準備
- 7 報告書の構成

## 〈執筆者プロフィール〉

山岸常人 —— 京都大学名誉教授・京都府立大学文学部特任教授  
岸 泰子 —— 京都府立大学文学部歴史学科准教授  
登谷伸宏 —— 京都工芸繊維大学デザイン・建築学系准教授



書名	部数
古建築調査ハンドブック 山岸常人・岸 泰子・登谷伸宏〈著〉	定価1,540円(税込) 本体1,400円 A5判・並製カバー装・46頁 2021年8月刊行 ISBN978-4-585-35000-2 C0052
ご送付先ご住所(通信欄)	部

# 戦国時代劇メディアの 見方・つくり方

## 戦国イメージと時代考証

大石学・時代考証学会〔編〕

### 史実と創作の狭間で

時代劇や歴史小説、漫画、アニメ、ゲームなどの創作において、虚構と現実の間を埋めるという重要な役割を持つ「時代考証」。歴史的事実との整合性を図りながら、エンターテインメントを追及する上で、「時代考証」はどのように関わっているのか。また、メディアの中で描かれる歴史上の人物のイメージは、時代によってどのような変遷を遂げているのか。歴史意識・イメージの変遷とそこに影響を与えるポップ・カルチャーの関係にも注目。

研究者、漫画家、俳優、ドラマ制作者、市民などのさまざまな視点から、「時代考証」を考察する、歴史ファン必携の一冊。

#### 【編者紹介】

大石学(おおいし まなぶ)

一九五三年生まれ。東京学芸大学名誉教授、日本芸術文化振興協会幹事。専門は日本近世史。大河ドラマ「新選組」篤姫、「龍馬伝」八重の桜、「花燃ゆ」西郷どんの時代考証を担当。著書に「時代劇の見方・楽しみ方」時代考証とリアリズム(吉川弘文館、二〇一三年)、「今に息づく江戸時代——首都・官僚・教育」(吉川弘文館、二〇二一年)など多数。

#### 【目次】

はしがき……大石学

序論……野本禎司

特論 戦国時代劇と時代考証……大石学

#### 第1編 時代劇メディアとポップ・カルチャー

1 時代考証数珠繋ぎ……尼子騒兵衛

2 時代劇メディアの中の「ポップ・カルチャー」  
——時代考証の所在を手がかりに——花岡敬太郎

3 剣豪イメージと時代コンテンツの変遷  
——柳生十兵衛を事例として——玉井建也

趣旨説明……花岡敬太郎  
コメント……大橋崇行

シンプोजウム「時代劇メディアと「ポップ・カルチャー」の境界を歩く」  
コメント……大橋崇行

パネルディスカッション 花岡敬太郎／玉井建也／尼子騒兵衛／大橋崇行／司会 茂木謙之介

#### 第2編 時代劇と戦国イメージ

4 戦国時代・武将のイメージ形成過程について……山野井健五

5 時代劇は存続するか?……佐藤峰世

6 戦国武将を演じるにあたって……森田順平／聞き手…金井貴司

シンプोजウム「戦国時代イメージを考える——時代劇メディア・学問・市民」  
趣旨説明……門松秀樹

パネルディスカッション……山野井健五／佐々木倫朗／森田順平／佐藤峰世／司会 神谷大介

#### 第3編 三英傑イメージの変遷

7 織田信長イメージの現在……橋本章

8 豊臣秀吉イメージの現在……井上泰至

9 徳川家康イメージの現在……原史彦

#### 第4編 歴史系学問と戦国イメージ

10 戦国大名の実像——殿様と家来……佐々木倫朗

11 「呂宋助左衛門」と海域アジア交易——時代劇が培う歴史像……川戸貴史

12 「設楽原」の発見——時代劇メディアの民俗学……及川祥平

13 特別展「戦国時代展」の思考……西山剛

【コラム】戦国イメージをドラマ化することの意味と面白さを考える

——時代考証学会第六回シンプोजウムに参加して……花岡敬太郎

【コラム】「お目付役」を超えるために

——時代考証学会第六回シンプोजウムのアンケート回答から……鈴木一史

【コラム】時代考証の役割とメディアリテラシー

——時代考証学会第一回シンプोजウムのアンケート回答から……工藤航平

あとがき……時代考証学会

定価二、五二〇円(税込)

(本体三、二〇〇円)

A5判・並製・三七六頁

二〇二一年九月刊行

ISBN978-4-585-32006-7 C0021

書名	部数
<b>戦国時代劇メディアの見方・つくり方</b> <b>戦国イメージと時代考証</b> 大石学・時代考証学会〔編〕	定価3,520円(税込) [本体3,200円] A5判・並製・376頁 ISBN978-4-585-32007-4 C0021 2021年10月刊行
ご送付先ご住所(通信欄)	

日本古文書学会 〈編〉

# 古文書への招待

## 過去の人びとのいとなみを読み取る

長屋王家符、北条政子書状、足利義教自筆御内書、豊臣秀吉朱印状、薩長同盟覚書裏書……

過去の人びとが書き残した「古文書」にはいったい何が書かれているのか？

古代から近代にわたる全四十五点の古文書を丹念に読み解くことで、古文書のもつ意味、それを記述した人びとの個性、書かれた背景をなす歴史的事件を明らかにする。

また、文章の内容のみならず、文字の書かれ方、料紙、大きさなど、「モノ」としての古文書にも焦点を当て、その魅力に迫る。

カラー図版をふんだんに配し、

全点に翻刻・現代語訳・詳細な解説を付した

恰好の古文書入門！

### 収録

#### ①かたち

- 長屋王家符
- 他田奉部直神護解
- 太政官符
- 源頼朝寄進状
- 伊賀国黒田莊悪党人縁者交名
- 武雄社大宮司都々丸代藤原通厚軍忠状
- 足利義満書状案
- 足利義教自筆御内書
- 東寺款状
- 羽柴秀吉制札
- 徳川家康起請文
- 豊臣秀吉朱印状
- 開帳差免帳
- 交代寄合山名義蕃書置

#### ②ひと

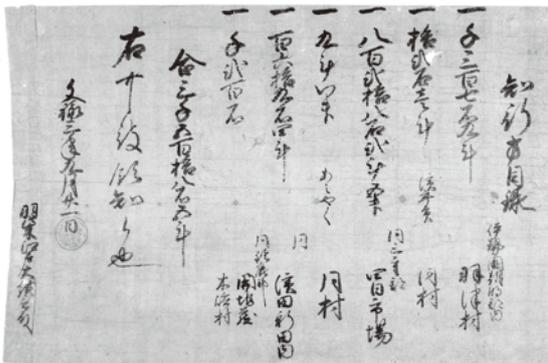
- 太政官符享
- 源実朝袖判下文
- 右馬允康経書状
- 某書状案断簡
- 護良親王令旨
- 大蔵大輔某奉書
- 足利尊氏御判御教書
- 征西將軍宮令旨
- 今川了俊書下
- 栖雲斎威阿書状
- 白川義親書状
- 丹羽長秀書状
- 毛利輝元起請文案
- 黒田如水(孝高)書状
- 五箇条の御誓文
- 北条政子書状
- 東大寺大勸進重源自筆書状
- 高麗渤海関係某書状
- 藤原為家讓状
- 足利尊氏御判御教書
- 沙弥惠尊(小田孝朝)書状
- 足利義隆御内書
- 武田信玄自筆願文
- 織田信長印判状
- 豊臣秀吉知行方目録
- 三井八郎右衛門宛寺井庄右衛門起請文
- 薩長同盟覚書裏書(坂本龍馬筆)

本体二、〇〇〇円(+税)

B5判並製カバー装・二七六頁(フルカラー)

二〇二一年一月刊行

ISBN978-4-585-22277-4 C1021



豊臣秀吉知行方目録

関地蔵院所蔵

[画像提供・亀山市歴史博物館]

書名	部数
古文書への招待	
日本古文書学会 [編]	
ご送付先ご住所 (通信欄)	

本体3,000円(+税)

B5判並製カバー装・176頁  
2021年1月刊行  
ISBN978-4-585-22277-4 C1021

増補改訂新版

# 日本中世史入門 論文を書こう

本体二、八〇〇円(+税)  
A5判並製カバー装  
六〇八頁・二〇二一年二月刊行  
ISBN978-4-585-22280-4 C0021

国士館大学文学部教授

秋山哲雄

国立歴史民俗博物館・  
総合研究大学院大学准教授

田中大喜

共愛学園前橋国際大学教授

野口華世

〈編〉

2014年刊行の  
日本中世史入門  
好評につき、  
大幅増補・改訂して  
近日刊行!  
240頁増!

## 歴史を学び、 考えるために

「歴史」はたんに過去の出来事をわれわれに伝えるのではなく、  
現代そして未来の人々の動向を規定する「力」を持っている。  
そこに学問として歴史を学ぶ意義が存在している。  
それでは、われわれはどのように歴史と対話すべきなのか――  
歴史学の基本である論文執筆のためのメソッドと観点を  
日本中世史研究の最新の知見とともにわかりやすく紹介、  
歴史を学び、考えることの醍醐味を伝授する。

### 卒論・修論の執筆、指導にも最適!

まえがき：秋山哲雄・田中大喜・野口華世

I 「歴史学」を学ぶということ

II 論文を書こう――歴史学研究の方法を学ぶ

III 日本中世史研究の現在

中世摂関家論●中世的権門としての摂関家：高松百香  
院政論●政治史と家族史の融合：佐伯智広  
平家政権論●平家政権論の軌跡とこれから：前田英之

中世前期国家財政論●税制・財政史から中世国家・社会の成立を考えるために：守田逸人

荘園史研究●中世天皇家の荘園の意味を考える：野口華世

中世武士論●中世武士のとりえ方はどう変わったか：伊藤瑠美

鎌倉幕府論●中世の特質を明らかにする：秋山哲雄

鎌倉幕府武士論●鎌倉幕府を支える様々な人々：赤澤春彦

鎌倉期守護論●幕府による全国統治の実態に迫る：西田友広

中世前期法制史研究●鎌倉幕府の法と裁判へのまなざし：木下竜馬

鎌倉幕府御家人制論●鎌倉幕府御家人制が中世後期に遺したものは：清水 亮

中世武士団論●中世の武士と社会の特質を考える：田中大喜

朝廷下級官人論●朝廷を支える官僚システム：遠藤珠紀

室町殿論●新たな権力者像の発見：大田壮一郎

室町期守護論●室町期守護論の「これまで」と「これから」：大藪 海

中世後期法制史研究●室町幕府法からみた中世後期の「法」の特質：松園潤朗

中世寺院史●中世寺院と顕密体制を考える：石田浩子

中世村落・環境史●生活の舞台としての村落をどうとらえるか：高木徳郎

中世交通・流通論●水陸のみちを考える：藤本頼人

中世都市論●都市の輪郭について考える：三枝暁子

中世身分論●身分と集団から中世社会を考える：辻 浩和

中世東国史研究●地域史と国家史のあいだで：植田真平

中世日本・東アジア交流史●外国との関わりを考える：伊川健二

中世日本境界領域論●東アジア交流の玄関口としての境界領域：荒木和憲

古文書学を学ぶ人のために●史料論の時代における古文書学の可能性：佐藤雄基

中世絵画史料論●絵画にかくされたもうひとつの日本文化：黒田 智

中世考古資料論●中世考古学の方法：村木二郎

執筆者一覧  
あとがき：増補改訂版の刊行に寄せて：秋山哲雄・田中大喜・野口華世  
研究概念・用語索引

書名	部数
増補改訂版 日本中世史入門——論文を書こう 秋山哲雄・田中大喜・野口華世〈編〉	本体3,800円(+税) A5判並製カバー装・608頁 2021年2月刊行 978-4-585-22280-4 C0021
ご送付先ご住所（通信欄）	

「Ⅱ 論文を書く」では、論文執筆から投稿までのプロセスをフローチャートでわかりやすく紹介。各段階で押さえておきたいポイントはQ&A方式で詳しく説明。

● 頁見本

はじめに

論文を書くという作業は、これまで進めてきた研究を文章としてまとめて新見を学界に問い、学問の進展に寄与することである。それだけに論文は、すぐに書けるものではない。ねばりつ参考文献や史料に向き合ってテーマを絞り、どうすれば自分の主張を説得力のあるものにできるかを熟考して構成を考え、史料を深く読み込んで我田引水とならないよう本論を慎重に書き進め、読者に自分の意図が伝わるよう丁寧な文章を推敲し、全体に矛盾がないかを広い視野で見直し、ようやく書き上がるものがある。おまかなフローチャートを左に示したので、まずはこれを参照しながら、後につづく項を読み進めていっていただきたい。迷ってもそれぞれの項目を何度でも確認していただければ、必ずや納得できる論文書き上げることができるはずである。なお、論文を書く方法は幾通りもあるだろうし、人によっても異なる。ここで示すのは、その中の一般的な書き方のひとつであることを断っておく。

【論文の書き方】フローチャート

① おおまかなテーマを考える (1参照)

② 参考文献を探して読む・史料を探して読む (2・3参照)

③ テーマを絞り込む (1参照)

④ 参考文献を探して読む・史料を探して読む (2・3参照)

⑤ テーマを確定する (1・3参照)

⑥ 構成を考える

⑦ 「はじめに」を書く

⑧ 本論を書く

⑨ 「おわりに」を書く

⑩ 結論を明示して「はじめに」に示した課題への回答を記す (4・6参照)

⑪ 他人の説を援用しない批判する (4・6参照)

⑫ 根拠となる史料を明示する (5・6参照)

⑬ 「はじめに」で示した課題と組織する場合に⑦にもとづいて

⑭ ⑩を推敲する (6参照)

⑮ ⑪を推敲する (7参照)

⑯ 書き直しを指示される

⑰ 書き直し

⑱ 学術雑誌に掲載される

4 構成を考える

Q1 書く前にまずやることは？

1でテーマを決め、2・3でそのテーマに関する参考文献や史料を読んだら、ようやく論文を執筆できる段階となる。論文を書く前には、まず全体の目次を考えることをお勧めする。目次は、当然のことながら、書き進めていくうちに変わることもあるが、最初におおまかな目次(「流れ」)を考えておくと、論文の筋道が整理できて、わかりやすい論文を書くことができる。目次は、「はじめに」本論「おわりに」という構成をとることが多い。本論は、3章から4章の構成にする。書きやすいだろう。また、それぞれの章の中を、さらにいくつかの節にわけると、読む側・書く側の双方にとって、わかりやすい内容になる。たとえば、【例1】～【例3】のような目次が考えられ、すでに読んだ参考文献や史料を、どの章や節で引用するかを考えながら目次をふくらませていけば、論文の形に近づいていくはずである。まずは目次をしつくりと考えよう。

【例1】武士団結合の複合的展開と公武権力

はじめに

第一章 族縁的結合と地域的結合

第一節 鎌倉期武士団の一族結合

第二節 本領の形成と地域的結合

第三節 町場と地域的結合

第四節 小括

第二章 一族結合と惣領制

第一節 惣領制の形成と展開

第二節 惣領職の成立

第三節 家督と惣領

第四節 小括

第三章 南北朝・室町期の武士団と荘園制

第一節 南北朝内乱と領地の所領の形成

第二節 室町幕府の戦争Ⅱ荘園政策と武士団

第三節 室町期の荘園制と惣領制

第四節 小括

おわりに

【例2】鎌倉と鎌倉幕府

はじめに

第一章 鎌倉と鎌倉幕府の「独立」過程

第一節 鎌倉幕府の成立と鎌倉

第二節 鎌倉と鎌倉幕府の「独立」

第三節 小括

第二章 鎌倉の求心力

第一節 裁許の求心力

第二節 経済の求心力

第三節 宗教の求心力

第四節 小括

第三章 鎌倉の多核化

第一節 将軍求心力の変化

第二節 鎌倉の「地子」と「地主」

第三節 鎌倉の「宿所」

第四節 小括

おわりに

Q2 「はじめに」で書くべきことは？

「はじめに」では、論文で扱うテーマに関する研究史の整理を行う。研究史整理を通して、現時点までに明らかにされてきたこと、そして現時点で課題として残されていることを、自分なりにまとめることになる。これによって、論文の課題を明示することができるのである。研究史整理は、論文を書くにあたってのもっとも重要な出発点であり、準備は入念に行わなければならない。準備の際に必要な参考文献・先行研究や史料の収集については、2・3を参照のこと。

Q3 「はじめに」で提示した課題が、結論と組織することは、2・3を参照のこと。

【例3】中世前期公家社会の変容  
はじめに  
第一章 女院領とその意義  
第一節 女院領の成立  
第二節 御願寺の継承とその意義  
第三節 小括  
第二章 鎌倉前期の知行者と後鳥羽院  
第一節 鎌倉期の安楽門院による継承  
第二節 後鳥羽院による知行者の改善  
第三節 知行者改善の要因とその影響  
第四節 承久の乱後の知行者の論理  
第五節 小括  
第三章 鎌倉後期の知行者の再編  
第一節 安楽再編の意味  
第二節 知行者再編の意味  
第三節 安楽再編の知行者のその後  
第四節 知行者の家領形成  
第五節 小括  
おわりに

● 頁見本

7つの段階に対応した43のQ&A

1 テーマを決める

- Q1 レポートと論文の違いは？
- Q2 テーマを決める要素は？
- Q3 論文にふさわしくないテーマは？
- Q4 興味を持つていることが絞れないときは？
- Q5 主要な通史類、講座類は？
- Q6 最近の研究動向を知るには？
- Q7 テーマを決める方法は？

2 参考文献を読む

- Q1 参考文献とは？
- Q2 ふざわい書籍とは？
- Q3 書籍を探すには？
- Q4 研究論文とは？
- Q5 学術雑誌とは？
- Q6 研究論文を探すには？
- Q7 研究論文を入手するには？
- Q8 参考文献の読み方は？
- Q9 参考文献を読むときに気をつけることは？
- Q10 参考文献を活用するには？

3 史料を読む

- Q1 史料とは？
- Q2 古文書を探すには？
- Q3 古記録や編纂物を探すには？
- Q4 地域の史料を集めるには？
- Q5 史料を読む前にすることは？
- Q6 史料を読むには？
- Q7 史料を読むときに気をつけることは？
- Q8 参考文献と史料を読んだ後は？

4 構成を考える

- Q1 書く前にまずやることは？
- Q2 「はじめに」で書くべきことは？
- Q3 本論で目指すことは？
- Q4 本論で気をつけることは？
- Q5 史料などを適切に引用するには？
- Q6 「おわりに」で注意すべきことは？

5 注(註)をつける／史料を引用する

- Q1 なぜ注をつけるのか？
- Q2 どのようなときに注をつけるのか？
- Q3 先行研究を引用する場合の注のつけ方は？
- Q4 史料を引用する場合の注のつけ方は？
- Q5 史料を引用する際に注意すべきことは？
- Q6 一次史料と二次史料の違いは？

6 推敲する

- Q1 推敲するとは？
- Q2 文章を見直すときのポイントは？
- Q3 文章を見直すときのポイントは？
- Q4 誤解されない文章を書くには？

7 投稿しよう

- Q1 どうやって投稿するのか？
- Q2 投稿すれば必ず掲載されるのか？

# 近世の村と百姓

渡辺尚志〔著〕

近世社会の特質を探る

近世社会において、百姓たちは領主や他の諸身分、また、周辺の地域社会とどのように関わり、折衝を行ってきたのか。災害など不慮の事態に如何に対応を講じてきたのか。各所に伝わる一点一点の史料を丁寧に読み込むことで、近世日本社会を生き抜いてきた村と百姓の底力を照射する。多くの新稿・新知見を盛り込んだ、近世村落史研究を長年にわたり領導してきた著者による待望の最新著書。

定価一〇、七八〇円(税込)  
(本体九、八〇〇円)

A5判上製カバー装・三八八頁  
二〇二二年八月刊行  
ISBN978-4-585-32002-9 C3021

【目次】

序章

第一部●出羽国村山郡の村と百姓

第一章…郡中議定からみた村と地域社会

第二章…年貢納入をめぐる村と領主  
—松前藩領の酒田買替米を事例として

第二部●両総地域(上総・下総両国)における村と百姓

第三章…両総における旗本知行所と相給村落  
—川村優氏の業績によせて

第四章…備荒貯蓄にみる百姓・領主関係  
—「積石一件」を事例として

第五章…無年季的質地請戻し慣行を再考する

第六章…幸谷村にみる相給村落の特質

第三部●近世の村と百姓

—村山郡と両総地域を中心に

第七章…土地と日本人  
—近世の村から、近代以降の土地所有を再考する

第八章…土地問題をめぐる百姓の意識  
—中林真幸氏の論文によせて

終章  
あとがき／索引



【著者紹介】

渡辺尚志(わたなべたかし)

一橋大学名誉教授。

専門は日本近世村落史。

著書に『幕末維新期の名望家と地域社会』(同成社、二〇一四年)、『百姓たちの水資源戦争』(草思社、二〇一四年)、『日本近世村落論』(岩波書店、二〇二〇年)、編著に『生産・流通・消費の近世史』(勉誠出版、二〇一六年)、『移行期の東海地域史—中世・近世・近代を架橋する』(勉誠出版、二〇一六年)、『生きるための地域史—東海地域の動態から』(共編著、勉誠出版、二〇二〇年)などがある。

<p>書名</p> <p><b>近世の村と百姓</b></p> <p>渡辺尚志〔著〕</p>	<p>部数</p> <p>定価10,780円(税込)・本体9,800円</p> <p>A5判・上製カバー装・388頁</p> <p>2021年8月刊行</p> <p>ISBN978-4-585-32002-9 C3021</p>
<p>ご送付先ご住所(通信欄)</p>	

# 杉田玄白と

# 江戸の蘭学塾

かたぎりかずお  
片桐一男 [著]

青山学院大学文学部名誉教授

## 「天真樓」塾とその門流 蘭学はどのように隆盛したのか

江戸時代の蘭学者・杉田玄白が開いた  
蘭学塾「天真樓」に着目、

その知られざる活動の実態や教育方針を初解明、  
後世への影響を初公開史料から明らかにする。

さらに玄白の門弟・大槻玄沢や、  
前野良沢門下の江馬蘭齋、

玄白と交流のあった吉雄耕牛、  
蘭学界を牽引した馬場佐十郎や海上随鷗門下の人びと、  
塾の門人帳や蔵書目録・訳著目録などの

史料を解説・分析、

蘭学が医者から武家へ、  
医学から兵学へと推移しながら発展していく、  
継承の軌跡をたどる。

### 【本書の特色】

◎「天真樓入門」條制「瘍科醫用天真樓蔵  
療具図攷」「清曠樓蔵外科療具録」など  
の初公開史料を解説し、杉田玄白が開  
いた蘭学塾の実態を明らかにする。

◎主要な蘭学塾のオランダ語、医学、兵術  
の教授法・思想を紹介。



### 【目次】

はじめに

#### I ●杉田玄白の「天真樓」

「天真樓」塾名／学究から行動の人へ／「天真樓入門條制」／天  
眞樓の遺識十二箇条／「瘍科醫用天真樓蔵療具図攷」／「清曠樓  
蔵外科療具録」／「杉田氏家蔵方」／参集の門下生／天真樓塾生  
名簿／教育――講義・テキスト・分量・速度――

#### II ●大槻玄沢の「芝蘭堂」と「載書」

「芝蘭堂」と大槻玄沢の有名要素／「芝蘭堂」をめぐる諸問題／  
門人帳「載書」／大槻玄沢の長崎遊学

#### III ●吉雄耕牛の「成秀館」

吉雄家のオランダ語／成秀館の教授／成秀館の蔵書／吉雄耕  
牛の訳書／「スウィーテン水」の伝来／二階オランダ坐舗／米  
沢藩医高橋玄勝の書翰が伝える／刺鍼法を伝えた人びと  
／吉雄の成秀館をめぐる検証の総括

#### IV ●江馬蘭齋の「好蘭堂」

塾名 好蘭堂／蘭学の師／蘭齋の「単語帳」／開塾・期間／出世  
のきっかけ／新元会に出席／「門人姓名録」／「格物堂社中門人  
姓名録」／格物堂社中門人姓名録／蘭齋門下の双壁／蘭齋の訳  
著／家訓・家法など

#### V ●馬場佐十郎の「三新堂」

オランダ語の師／天文台官舎内「三新堂」／馬場佐十郎のオラン  
ダ語文法書／「西文規範」と「バーム原書」／「蘭学梯航」について

#### VI ●その後の蘭学塾と門人帳

稲村三伯 海上随鷗の「社盟録」／藤林普山の「玉川堂」と「瑤川  
堂」／小森桃塙の「素診館」／坪井信道の「安懷堂」と「習堂」／伊東  
玄朴の「象先堂」／蘭方医仁保春菴・河内蘭奇片影／川本幸民の  
「静修堂」／緒方洪庵の適塾／吉田長淑の「蘭馨堂」／土生玄碩  
の「迎翠堂」／シーボルトの鳴滝学舎／佐藤泰然の「順天堂」塾  
／松本順の「登籍人名小記」／青木周弼の門人／広瀬元恭の「時  
習堂」／大村益次郎の「鳩居堂」／高島秋帆の門人／江川坦庵の  
門人／佐久間象山の塾

おわりにかえて

書名	部数
<p>杉田玄白と江戸の蘭学塾 「天真樓」塾とその門流 片桐一男 [著]</p>	<p>定価 7,700円(税込)・本体7,000円 A5判・上製カバー装・288頁 2021年7月刊行 ISBN978-4-585-32004-3 C3021</p>
ご送付先ご住所（通信欄）	

# 鷹狩の日本史

たかがり

福田千鶴・武井弘一 [編]

## 知られざるヒトとタカの関係史

飼い慣らした鷹を自在に操り、獲物を捕らえる狩猟、鷹狩。

五世紀の古墳時代から

江戸幕府瓦解の十九世紀後半に至るまで、

鷹狩は権力と深く結びつきながら

日本列島において連綿と続けられてきた。

そこには、日本の風土や社会のなかで

地域・時代・階層、あるいは狩猟の目的等にあわせて

独自に発展してきた固有の歴史が存在する。

日本史を貫く重要な要素でありながら、

等閑視されてきた鷹狩の歴史を紐解き、

新たな知の沃野を拓く刺激的な一冊。

### 編者プロフィール

#### 福田千鶴 ふくだちづる

一九六一年生まれ。九州大学基幹教育院教授。鷹鷹場・環境研究会代表。専門は日本近世史。著書に『幕藩制の秩序と御家騒動』(校倉書房、一九九九年)、『徳川綱吉』(山川出版社、二〇一〇年)、『近世武家社会の奥向構造』(吉川弘文館、二〇一八年)、『城割の作法』(吉川弘文館、二〇二〇年)などがある。

#### 武井弘一 (たけいこういち)

一九七一年生まれ。琉球大学国際地域創造学部准教授。鷹鷹場・環境研究会副代表。専門は日本近世史。著書に『鉄砲を手放さなかった百姓たち』(朝日新聞出版、二〇一〇年)、『江戸日本の転換点』(NHK出版、二〇一五年)、『茶と琉球人』(岩波書店、二〇一八年)などがある。



### 目次

序章 鷹狩の日本史◎福田千鶴

第1部 古代から近世までの通史的展開

第1章 古代日本の鷹狩◎森田喜久男

第2章 中世日本の鷹狩◎中澤克昭

第3章 近世日本の鷹狩◎武井弘一

【ラム1】鷹・馬・犬からみた生類憐みの令◎兼平賢治

【ラム2】山林原野の明治維新と御猟場◎江藤彰彦

第2部 鷹と人との関係史

第4章 鷹の種類と調教◎福田千鶴

【ラム3】琉球の鷹狩儀礼と生態系◎武井弘一

第5章 鷹狩をめぐる江戸時代のツルの「保護」と人との関わり◎久井貴世

第6章 琵琶湖の水鳥狩と鷹場◎東 幸代

【ラム4】鳥取藩「湖山鴨堀」と周辺環境◎米見田博基

第7章 越後国村上藩主松平直矩の鷹と鷹狩◎渡部浩一

第8章 大洲藩の狩——御鷹野場と生業◎東 昇

第9章 尾張藩家臣の鷹場

【ラム5】「さだ六とシロ」の物語◎福田千鶴

第3部 日本列島における鷹の諸相

第10章 「御鷹」の献上・下賜◎越坂裕太

【ラム6】「御鷹」拝領と「御鷹」二而捉飼◎鳥類の時献上 武鑑を糸口に◎藤貫久美子

第11章 松前藩と鷹鳥屋場知行◎榎森 進

【ラム7】将軍の鷹と馬◎兼平賢治

第12章 盛岡藩の鷹と鷹鷹の捕獲◎中野渡一耕

【ラム8】参勤交代にみる鷹の役割◎米見田博基

第13章 南九州における鷹巢山について——米良山を中心に◎大賀郁夫

第4部 鷹狩文化を担った人々

第14章 鷹詞と有職故実◎大坪 舞

第15章 鷹狩の絵画——近世初期における鷹狩への眼差し◎水野裕史

第16章 銅鳥勝茂と鷹◎伊藤昭弘

第17章 鷹匠として生きる武士たち◎堀田幸義

【ラム9】江戸における鷹匠の交流◎岩淵令治

第18章 鷹書と出版文化◎藤貫久美子

【ラム10】越境する鷹狩文化

——中央ユーラシアを駆ける鷹狩と鷹匠の世界◎相馬拓也



本体 三、八〇〇円 (+税)

A5並製カバー装・三六八頁

二〇二一年二月刊行

ISBN978-4-585-22297-2 C1021

あとがき◎武井弘一

執筆者紹介◎掲載図版一覧◎鷹狩年表◎索引

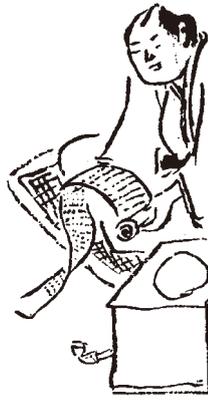
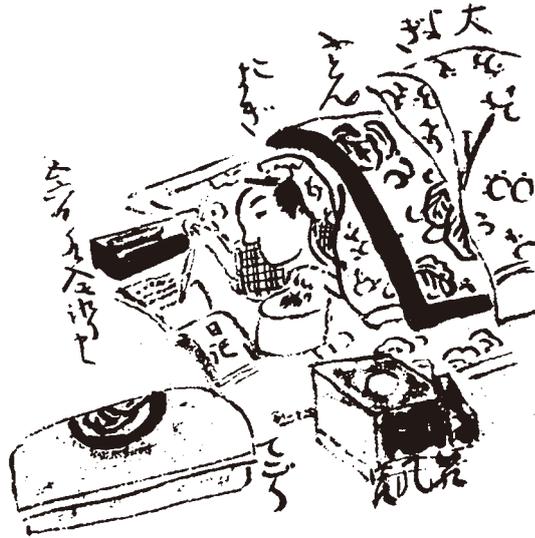
書名	部数
鷹狩の日本史 福田千鶴・武井弘一 [編]	部
本体 3,800円 (+税)	
A5判・並製・カバー装・368頁	
2021年2月刊行	
ISBN978-4-585-22297-2 C1021	
ご送付先ご住所 (通信欄)	

勤番武士の江戸滞在記

# 勤番武士の江戸滞在記

## 国枝外右馬江戶詰中日記

くにぎだうまはまごうめちゅうじにっし



### 新たな江戸像を描き出す貴重史料

天保改革期に白杵藩士・国枝外右馬が、参勤交代で江戸勤番の間に書き残した一年分の日記史料の全編を初めて活字化。一四〇点に及ぶ挿絵とともに紹介する。四十代にして初めて見る江戸の様子や、自分の仕事ぶりを息子たちに伝える、生き生きと愛らしい絵入りの詳細な記述は、研究史料として稀有なだけでなく、専門家以外の読者にも江戸の人々を身近に感じさせる興味深い史料である。外からやってきた勤番武士による江戸の報告は、地元の間が発信するものとは異なる新たな江戸像を示すものとなるだろう。

本書の構成

カラー口絵

序文・凡例

【日記翻刻】

国枝外右馬江戶詰中日記 第一冊

天保十三年四月〜九月朔日夕十四日迄

国枝外右馬江戶詰中日記 第二冊

九月十四日夕晦日迄〜天保十四年五月

【解説】

解題―岩淵令治

国枝外右馬とその周辺

放送大学千葉学習センター「古文書を読む会」

挿絵一覧・あとがき



# 岩淵令治

〈編〉

定価 一、〇〇〇円(税込)「本体一〇、〇〇〇円・A5判上製カバー装・五二二頁(+カラー一六頁)・二〇二一年五月刊行・ISBN978-4-585-32000-5 C3021

(いわぶち・れいじ)一九六六年生まれ。学習院女子大学国際文化交流学部教授。専門は日本近世都市史。著書に『江戸武家地の研究』(稿書房、二〇〇四年)、『史跡で読む日本の歴史』9(編著、吉川弘文館、二〇一〇年)、『江戸』の発見と商品化(編著、岩田書院、二〇一四年)、論文に「巨大都市江戸における居住者と自己認識」(渡辺浩一/ヴァネッサ・ハーディング編『自己語りと記憶の比較都市史』勉誠出版、二〇一五年)、「江戸における鷹匠の交流」(福田千鶴・武井弘一編『鷹狩の日本史』勉誠出版、二〇二一年)などがある。

書名	部数
<b>勤番武士の江戸滞在記</b> 国枝外右馬江戶詰中日記 岩淵令治 〈編〉	定価 <b>11,000</b> 円(税込)・本体10,000円 A5判上製カバー装・512頁(+カラー口絵16頁) 2021年5月刊行 ISBN978-4-585-32000-5 C3021
ご送付先ご住所(通信欄)	

# 創られた 由緒 近世大和国諸社と 在地神道家

向村九音 著

さきむら・ちかね——奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程、満期退学。博士(文学)。  
現在、日本学術振興会特別研究員。専門は日本中世・近世の文学。主な論文に「大乘院寺社雑事記」  
を中心に見る率川社——中世期に形成された像と機能」(『叙説』43、奈良女子大学日本アジア言語  
文化学会、二〇一六年)、「今出河一友による石上神宮由緒記の生成——「家の由緒」との連関」(『説  
話文学研究』55、説話文学会、二〇二〇年)などがある。

## 【目次】

- 第一章 今出河一友概説  
第二章 今出河一友による石上神宮由緒記の生成——「家の由緒」との連関  
第三章 「大三輪神三社鎮座次第」の成立と言説の共有  
附論 「大乘院寺社雑事記」を中心に見る率川神社——中世期に形成された像と機能  
第四章 「大倭神社注進状並率川神社記附裏書」に見る大和国諸社の由緒再編  
第五章 近世期六師神社における由緒生成と古伝の「再発見」  
第六章 近世における石上神宮鎮魂祭儀礼次第生成の位相  
結び  
附表Ⅰ 今出河一友著作・書写本の一覧  
附表Ⅱ 大阪府立中之島図書館石崎文庫所蔵大神宗次関連典籍の一覧  
翻刻資料 國學院大学図書館所蔵『鎮魂祭略儀式』  
参考文献 一覧・あとがき・初出一覧・索引

## 「古え」は、 いかにして 語られたのか

近世中葉、幕府・藩の統制のもと社寺の秩序化が行われるようになる。社寺の復興、復権などを目的として「由緒」が希求されるようになった。それら「由緒」を説く任にあたったのは、神職や僧侶、そして神道家(神学者)であった。石上神宮・大神神社・大和神社といった山辺の古社をはじめとして大和国諸社の由緒記を述作した在地神道家、今出河一友。由緒正しき伝——「失われた古伝」、「俗説とは異なる真の伝」の創出を企図した彼は、いかなる方法を用いて、歴史的・文化的正統性を描き出したのか。また、その言説は、地域社会において、どのように受容され、伝播していったのか。「古え」「淵源」を語る営みの意味を捉えかえす画期的著作。

定価 八、八〇〇円(税込)

【本体八、〇〇〇円】

A5判上製カバー装・二八八頁

二〇二一年六月刊行

ISBN978-4-585-31002-0 C3014

書名	部数
創られた由緒 近世大和国諸社と 在地神道家 向村九音(著)	定価8,800円(税込) 本体8,000円 A5判・上製カバー装・288頁 2021年6月刊行 ISBN978-4-585-31002-0 C3014
ご送付先ご住所(通信欄)	

藤本幸夫

〔編〕

（ふじもと・ゆきお）富山大学名誉教授、麗澤大学客員教授。専門は朝鮮語学・朝鮮文献学。二〇二一年学士院賞、恩賜賞を受賞。著書に『日本現存朝鮮本研究 集部』（京都大学学術出版会、二〇〇六年）、『日韓漢文訓読研究』（編著、勉誠出版、二〇一四年）、『龍龕手鏡鑑研究』（編著、麗澤大学出版会、二〇一五年）、『日本現存朝鮮本研究 史部』（韓国東国大学出版部、二〇一八年）などがある。

# 書物・印刷・本屋

図版点数  
390超

## 日中韓をめぐる 本の文化史

- 第一部 書物のかたち・書物のジャンル
- 第二部 印刷・活字・技術
- 第三部 本屋・商業出版・蔵書

〈本書の特色〉

中国、朝鮮半島、日本に伝播した書物文化は、各国各地に於いて民間の商業出版——坊刻本——の深淵かつ絢爛な世界を形づくっていった。書籍の出版から販売・読書にいたる具体的な諸相、即ち潤筆料・版下・刻版・彫師・摺師・版木・料紙・装幀・本屋・貸本屋・書価・出版部数・流通・読者・版株・印刷術・禁書・和刻・出版統制等々を中心に、書物史研究を牽引する珠玉の執筆者35名による知見を集結、390点を超える図版資料を収載した

- 書物のジャンル、形態、印刷技術、本屋や商業出版の諸相など、日中韓の書物文化史を詳細に記述したレファレンスツールとして最適の百科事典的書籍。
- 書誌学・出版史・印刷史など、書物研究の第一線を走るオールドスターが集結した画期的な一冊。
- 学士院賞、ゲスナー賞、日本出版学会賞、角川源義賞、岩瀬弥助記念書物文化賞等、様々な受賞歴を有する執筆陣が寄稿。
- 390点を超える貴重な図版資料を収載。

日中韓の知の世界を彩る  
書物文化を知るためのエンサイクロペディア。

定価一七、六〇〇円(税込)

(本体一六、〇〇〇円)

B5判上製カバー装・八九六頁

二〇二一年六月刊行

ISBN978-4-585-30002-1 C3000

### 執筆者一覽

- 第一部：佐々木孝浩・柏崎順子・木村八重子・棚橋正博・佐藤至子・鈴木圭一・石上阿希・大久保純一・湯浅淑子・鈴木俊幸・万波寿子・鈴木達彦
- 第二部：住吉朋彦・堀川貴司・長澤孝三・豊島正之・林進・高木浩明・森上修・小秋元段・渡辺守邦・橋口侯之介・永井一彰
- 第三部：鈴木俊幸・塩村耕・長友千代治・岡村敏二・大沼晴暉・大木康・大塚秀高・金文京・上原究一・高橋智・藤本幸夫・李胤錫・全相昱

…詳細目次は裏面をご覧ください。

書名	部数
書物・印刷・本屋 日中韓をめぐる本の文化史	定価17,600円・本体16,000円 B5判上製カバー装・896頁 2021年6月刊行 ISBN978-4-585-30002-1 C3000
藤本幸夫 [編]	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。  
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

〈詳細目次〉

序文……………藤本幸夫

●第一部——書物のかたち・書物のジャンル

- 佐々木孝浩……………〈古写本〉日本の写本——装訂を中心として
- 柏崎順子……………〈江戸版〉初期出版界の様相
- 木村八重子……………〈草双紙〉「草双紙」の史的展望
- 棚橋正博……………〈黄表紙〉黄表紙
- 佐藤至子……………〈合巻〉合巻における自主規制——「三国太郎再来伝」から「現世扶桑太郎」へ
- 鈴木圭一……………〈中本（人情本）〉中本二編三冊意識
- 石上阿希……………〈春画・艶本〉「書籍目録」にみる枕絵と好色本
- 大久保純一……………〈錦絵〉錦絵とは
- 湯浅淑子……………〈おもちゃ絵〉江戸のおもちゃ絵
- 鈴木俊幸……………〈草紙類〉上方の草紙類をめぐる
- 万波寿子……………〈仏書〉日本の仏書
- 鈴木達彦……………〈医書〉日本漢方の特質と日本医書

●第二部——印刷・活字・技術

- 住吉朋彦……………〈宋版・元版〉宋元版研究の道程
- 堀川貴司……………〈五山版〉五山版をどう考えるか
- 長澤孝三……………〈和刻本〉「和刻本」について
- 豊島正之……………〈キリシタン版〉キリシタン文獻
- 林進……………〈古活字版〉角倉素庵はなぜ出版事業を興したのか——近世初頭、草創期の古活字版
- 高木浩明……………〈古活字版〉古活字版から整版へ、整版から古活字版へ
- 森上修……………〈古活字版〉古活字版印刷と木活字駒の彫出技法
- 小秋元段……………〈出版史料としての反古〉東北大学附属図書館漱石文庫所蔵古活字版『太平記鈔・音義』表紙の復元的考察
- 渡辺守邦……………〈出版史料としての反古〉表紙裏反古・再考
- 橋口侯之介……………〈彫りと摺り〉彫師摺師から見た日本の出版形態
- 永井一彰……………〈版木〉板木の節

●第三部——本屋・商業出版・蔵書

- 鈴木俊幸……………〈日本近世の本屋〉本屋と出版——江戸時代における書籍文化の特質
- 塩村耕……………〈日本近世前期の商業出版〉近世前期の出版界と西鶴
- 長友千代治……………〈貸本屋〉貸本屋の横顔
- 岡村敬二……………〈蔵書・蒐書（日本）〉蔵書家の索引、蔵版、蔵書の行方
- 大沼晴暉……………〈蔵書・蒐書（日本）〉田中さんのおもちゃ箱——小平市立図書館蔵本
- 大沼晴暉……………〈日中韓の商業出版〉日中韓坊刻本の比較研究或いは此等二か国書物の比較研究のために
- 大木康……………〈中国の商業出版〉中国書肆史考——近世を中心に
- 大塚秀高……………〈中国の商業出版〉坊刻本と物語——口頭の物語の出版について
- 金文京……………〈中国の商業出版〉明代建陽の商業出版と通俗小説
- 上原究一……………〈中国の商業出版〉明末清初の坊刻における江西の位置付けについて
- 高橋智……………〈蔵書・蒐書（中国）〉中国の蔵書家について
- 藤本幸夫……………〈朝鮮の商業出版〉朝鮮坊刻本攷
- 李胤錫……………〈朝鮮の商業出版〉朝鮮朝出版における坊刻本の性格と位置
- 全相豆……………〈朝鮮の商業出版〉坊刻本「春香伝」の発生とその変貌について

あとがき……………藤本幸夫  
執筆者覧

櫻井智美・飯山知保・森田憲司・渡辺健哉

編

# 元朝の歴史

〔アジア遊学 256〕

モンゴル帝国期の東ユーラシア

一二〇六年、チンギス・カンの即位により成立した大モンゴル国は、その後継者たちにより、ユーラシア大陸全土へその版図を広げていった。その後、皇位争いに勝利し、国号を「大元」と改めた世祖クビライが、一二七九年に南宋を攻略したことにより、中国史に新たな統一王朝の名を刻むこととなる——元朝である。中国史における「元朝」とはいかなる存在であったのか——冷戦終結に伴う史料環境・研究環境の変化により、長足の進展をなしてきたモンゴル帝国史・元朝史研究の成果を受け、元代の政治・制度、社会・宗教、文化の展開の諸相、国際関係などを多面的に考察。さらには元朝をめぐる学問史を検討することにより、新たな元朝史研究の起点を示す。

〔目次〕

- カラー口絵……『書史会要』（台湾国家図書館蔵洪武九年刊本）ほか  
序言 ● 櫻井智美  
導論 ● クビライ登極以前のモンゴル帝国の歴史 ● 渡辺健哉  
本朝皇帝系図  
本書所載論稿関係年表  
元朝皇帝一覧
- I 元代の政治・制度  
元代「四階級制」説のその後  
「モンゴル人第一主義」と色目人をめぐって ● 松田善之  
ジャムチを使う人たち——元朝交通制度の一断面 ● 山本明志  
元代の三都（大都・上都・中都）とその管理 ● 渡辺健哉  
江南の監察官制と元初の推挙システム ● 櫻井智美  
〔コラム〕カラホト文書 ● 赤木崇敏  
〔コラム〕元代における宮室女性の活躍 ● 牛 瀟  
元末順帝朝の政局——後至元年間バヤン執政期を中心に ● 山崎 岳
- II 元代の社会・宗教  
元代の水運と海運  
——華北と江南はいかにして結びつけられたか ● 矢澤知行  
モンゴル朝における道仏論争について  
——『至元辯偽録』に見える禅宗の全真教理解 ● 松下道信  
元版大蔵經の刊行と東アジア ● 野沢佳美  
〔コラム〕南宋最後の皇帝とチベット仏教 ● 中村 淳  
〔コラム〕夷狄に便利な朱子学——朱子学の中華意識と治統論 ● 垣内景子  
回顧されるモンゴル時代——陝西省大荔県拜氏とその祖先顕彰 ● 飯山知保

III 伝統文化とその展開

- 「知」の混一と出版事業 ● 宮 紀子  
白樺の生涯と文学 ● 土屋育子  
「元代文学」を見つめるまなざし ● 奥野新太郎  
景德鎮青花瓷器の登場——その生産と流通 ● 徳留大輔
- IV 元朝をめぐる国際関係  
「朴通事」から広がる世界 ● 金 文京  
日元間の戦争と交易 ● 中村 翼  
日元間の僧侶の往来規模 ● 榎本 涉  
モンゴル帝国と北の海の世界 ● 中村和之  
元と南方世界 ● 向 正樹

V 研究の進展の中で

- 書き換えられた世界史教科書  
——モンゴルⅡ元朝史研究進展の所産 ● 村岡 倫  
史料の刊行から見た二十世紀末日本の元朝史研究 ● 森田憲司  
〔コラム〕チンギス・カンは源義経ではない  
——同一人物説に立ちはだかる史実の壁 ● 村岡 倫  
〔コラム〕モンゴル時代の石碑を探して  
——桑原隲蔵と常盤大定の調査記録から ● 渡辺健哉  
〔コラム〕混一疆理歴代国都之図の再発見 ● 渡邊 久

〔編者紹介〕

**櫻井智美**（さくらい・さとみ）  
明治大学文学部准教授。専門は宋元史、モンゴル帝国史。主な論文に「曹彬不嗜殺人——元代における曹彬故事の採用とバヤンの評価」（『明大アジア史論集』二二、二〇一九年）などがある。

**飯山知保**（いいやま・ともやす）  
早稲田大学文学部准教授。専門は中国華北社会史。主な著書に『金元時代の華北社会と科挙制度——もう一つの「土人層」』（早稲田大学出版部、二〇一一年）などがある。

**森田憲司**（もりた・けんじ）  
奈良大学名誉教授。専門は中国近世社会文化史。主な著書に『概説中国史 上下』（共編、執筆、昭和堂、二〇一六年）などがある。

**渡辺健哉**（わたなべ・けんや）  
大阪市立大学大学院文学研究科教授。専門は元代都城史・近代における日中學術交流史。主な著書に『元大都形成史の研究——首都北京の原型』（東北大学出版部、二〇一七年）などがある。

定価 **3,520** 円(税込)  
本体 3,200 円  
A5判並製カバー装・322頁  
ISBN978-4-585-32502-4 C1322  
2021年6月刊行

書名	部数
元朝の歴史 モンゴル帝国期の東ユーラシア 〔アジア遊学No.256〕 櫻井智美・飯山知保・森田憲司・渡辺健哉〔編〕	部
定価 3,520円(税込) A5判並製カバー装・322頁 2021年6月刊行 ISBN978-4-585-32502-4 C1322	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

# 交錯する宗教と民族

鹿毛敏夫 [編]

## 交流と衝突の比較史

アジア遊学 257

### 混沌の歴史を紐解く

世界に多数存在する異宗教と多民族は、時に激しい対立や交流、融合を繰り返しながら、現代までの歴史を紡いできた。それらは、いかに顕在化しているのか。アジアとヨーロッパの東西における

人の移動と民族の越境・交流の実態、ヨーロッパ社会における政治と宗教の関係、

個々の人間の想いとその相克、さらにそこから相対化される

「国家」意識の具体的深層に迫る。

歴史学・文学・社会学・文化人類学・言語学・地域学・宗教学の分野から多角的に比較検証し、宗教・民族・国家間の共存のあり方を問い直す。



#### 【編者紹介】

鹿毛敏夫 (かげとしお)

名古屋学院大学教授。専門は日本中世史。主な著書に『戦国大名の海外交易』(勉誠出版、二〇一九年)、編著に『大内と大友——中世西日本の二大名』(勉誠出版、二〇一三年)、『描かれたザビエルと戦国日本——西歐画家のアジア認識』(勉誠出版、二〇一七年)、『戦国大名大友氏の館と権力』(共編、吉川弘文館、二〇一八年)などがある。

#### 【目次】

はしがき 異宗教・多民族世界の混沌

——その歴史と現在——鹿毛敏夫

#### 第1部 ● 流動する民族社会

鎌倉北条氏と南宋禅林——渡海僧無象静照をめぐる人びと……村井章介  
ドイツ語圏越境作家における言語・民族・文化をめぐる……土屋勝彦  
近代名古屋にとつての中東——実業界との関係を中心に……吉田達矢  
民族をめぐる対立と交流の位相  
——滞日ビルマ系難民の国際移動の事例から……人見泰弘

#### 第2部 ● 宗教の断絶と叡智

ポグダレス化する世界と日本の宗教文化……井上順孝  
ラダックのアイデンティティ運動

——もうひとつの「カシミール問題」……宮坂清

インドネシア・アチエ州のイスラーム刑法と人権……佐伯奈津子  
宗教と平和——宗教多元社会における戦争……黒柳志仁

#### 第3部 ● 個の相克と相対化される「国家」

戦国大名の「国意識」と「地域国家」外交権……鹿毛敏夫  
日本中世の「暴力」と現代の「教育」……メイヨー・クリストファード  
一亡命作家の軌跡・西欧キリスト教世界の対岸から  
——ファン・ゴイティソローの

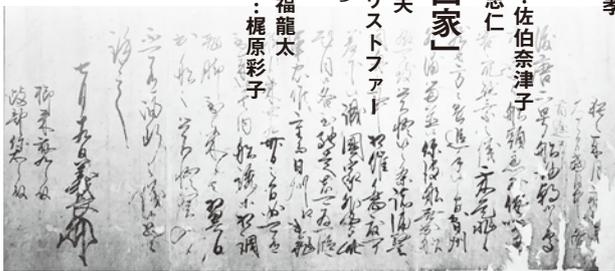
バルセロナ、サラエヴォ、マラケシュ……今福龍太

保育園で働く看護師の語りから考える多文化共生……梶原彩子



定価 二,〇八〇円(税込)  
本体 一,八〇〇円

A5判並製カバー装・二二四頁  
二〇二一年七月刊行  
ISBN978-4-585-32503-1 C1320



書名	部数
<b>交錯する宗教と民族</b> 交流と衝突の比較史 鹿毛敏夫 [編]	部
定価 3,080円(税込)・本体2,800円 A5判並製カバー装・224頁 2021年7月刊行 ISBN978-4-585-32503-1 C1320	部
ご送付先ご住所 (通信欄)	

水井万里子・大澤広晃・杉浦未樹・吉田信・伏見岳志

【アジア遊学258】

【編者紹介】

水井万里子（みづい・まりこ）九州工業大学教授。

大澤広晃（おおさわ・ひろあき）法政大学文学部准教授。

杉浦未樹（すぎうら・みき）法政大学経済学部教授。

吉田信（よしだ・まこと）南山大学国際教養学部教授。

伏見岳志（ふしみ・たけし）慶應義塾大学商学部教授。

専門は中南米および環大西洋史。

専門は国際関係論・植民地法制史。

専門は近世都市流通消費史。

専門は近世都市流通消費史。

# 史料が語る東インド航路

## 移動がうみだす接触領域

十五世紀末から開拓され、ヨーロッパがアジアと出会った海上路、東インド航路。この航路は、大西洋を南下して、喜望峯を越え、アジア各地へと至る長距離ルートであった。以降、スエズ運河開通によりルートや移動手段が多様化するまで、多くの人やモノがこの航路を往来し、多数の記録簿や報告書、書簡、日記などの史料群が残された。

このような史料の書き手であった移動者であるヨーロッパ人と移動先のローカルな人々との関係は、航路上にあった「接触領域」コンタクト・ゾーン」の中で取り結ばれ、記録された。航路の変遷をたどり、そこに残された史料から、現地の人々の営みや関係性、特に奴隷や移動労働者といった可視化されにくい人々の輪郭を探る。



定価 3,080円(税込)  
本体 2,800円  
A5判並製カバー装・256頁  
ISBN978-4-585-32504-8 C1322  
2021年7月刊行

### 【目次】

はじめに ● 水井万里子・伏見岳志・大澤広晃

#### I 長距離航路からみる世界

東インド航路のなかのアフリカ ● 伏見岳志  
ケープ・ルートの多様化と  
オランダ東インド会社のケープ居留地建設 ● 和田郁子  
近代中国の誕生とロバート・モリソン ● 橋本真吾  
植民地をつなぎなおす ― スペインとポルトガルの帝国再編 ● 伏見岳志  
スペインとキューバ・アフリカをつなぐ  
非合法奴隷貿易のネットワーク ● 八嶋由香利

#### II 史料が描く接触領域としての島々

文書館史料を通じて人と出会う  
マダガスカル史研究史料としてのオランダ東インド会社文書  
イヴェット・ランジェヴァ・ラベタフィカ、ルネ・パーシユウ、  
ナタリー・エフアーツ（末永信義・訳）  
十八世紀末から十九世紀初頭のセント・ヘレナ島における移動と接触  
イギリス東インド会社関連史料から ● 水井万里子

#### III 史料のなかのケープ植民地

豊富なデータが開く歴史  
ケープ植民地の統計史料 ● ヨハン・フォォーリー（訳：末永信義）  
英領ケープ植民地における陸軍と関連史料 ― 一七九五―一八二〇年 ● 辻本諭  
十八―十九世紀前半の南部アフリカにおける  
イギリス系プロテスタント宣教師団  
移動史料研究の前提として ● 大澤広晃  
十九世紀前半の南部アフリカにおけるウエスリアン・メソヂイスト宣教師団  
史料の特徴とそのナラティブ ● 大澤広晃

#### IV 変貌する東インド航路と帝国

ポスターのなかのアフリカの「自然」  
イギリス帝国通商局によるプロバガンダの環境史的考察 ● 宮内洋平  
オランダ領東インドにおける旅券制度の展開  
植民地パスポートの様式と機能をめぐって ● 吉田信  
十九―二十世紀におけるフランス植民地帝国間の移動  
マルセイユ・サイゴン定期便 ● 岡田友和  
【コラム】旅券のスタンプから再現する植民地と本国の移動 ● 吉田信

書名	部数
史料が語る東インド航路 【アジア遊学No.258】 移動がうみだす接触領域 水井万里子・大澤広晃・杉浦未樹・吉田信・伏見岳志【編】	部
定価 3,080円(税込) A5判並製カバー装・256頁 2021年7月刊行 ISBN978-4-585-32504-8 C1322	
ご送付先ご住所（通信欄）	

# 書物のなかの近世国家

## 東アジア「一統志」の時代

アジア遊学 259

### 王朝のすべてを志す

しる



『大南一統志』

小二田 章 (こにた ちかきら)

早稲田大学文学学術院講師・専門は近世中国史

高井康典行 (たかい やすゆき)

早稲田大学文学学術院ほか非常勤講師・専門は契丹(遼)史

吉野正史 (よしの まさふみ)

明治大学兼任講師・専門は中国北方政治史

〔編〕

中国王朝が自らの領域の全体を明示すべく、各地域の歴史とデータを集積し作り上げた総合的書物「一統志」。元・明・清において編まれたこれらの書籍は、東アジア諸国や欧州へも伝播し、近代の地誌・歴史編纂にも影響を与えるものであった。近代的領域認識の萌芽を体現するこれらの編纂物は、いかなる時代状況において作られたものであったのか。編纂前史から、王朝三代にわたり編纂されたそれぞれの「一統志」のあり方、周辺諸国や後代に与えた影響をも考察し、「一統志の時代」を浮かび上がらせる。

### 〔目次〕

序言——「一統志」の「時代」を語るために……小二田 章

#### 1 ● 一統志以前

李吉甫の描く「一統」——『元和郡県図志』とその疆域……竹内洋介  
宋朝総志編纂考——総志から方志へ……須江 隆

#### 2 ● 大元一統志

元代における遼金代東北地域に対する地理認識の地域差  
——『大元一統志』遼史』『金史』『大元混一方輿勝覧』の  
地理記述の比較から……高井康典行

中国史上の「大一統」と「大元大一統志」……櫻井智美  
『大元一統志』における路に関する記載について  
——『大元一統志』輯本の理解のために……吉野正史

#### 3 ● 大明一統志

明代景泰——天順期の政局と一統志……高橋 亨  
『大明一統志』人物伝とは——『遼東志』との関係をめぐる……荷見守義  
『大明一統志』に関するいくつかの問題について……巴 兆祥(訳:小二田 章)  
『コラム』元・明一統志の非中華世界へのまなざし……向 正樹

#### 4 ● 大清一統志

明清期個人編全国志初探——大明から大清への「一統志」の道……小二田 章  
北辺からみる『大清一統志』……柳澤 明  
『コラム』ヨーロッパに伝えられた中国の地理情報  
——『皇輿全覽図』の製作と宣教師の記録……澤 美香

#### 5 ● 東アジアの一統志

中井竹山の名分論について

——他学派批判との関連を中心に……清水則夫

「津軽一統志」の編纂と弘前藩……長谷川成一

「文芸」の地誌から「口承」の地誌へ

——『信達風土雜記』と『信達一統志』……高橋章則

朝鮮近世の地理誌は誰のものだったのか……吉田光男

朝鮮燕行使の『大明一統志』輸入について……辻 大和

周縁から見た一統志——南の小中華と『大南一統志』……岡田雅志

#### 6 ● 一統志のあなた

古典期(十〜十三世紀)イスラーム世界における地方史誌

——ウラマーの地方観と知的実践……森山史朗

小国が自ら国境線を引くとき

——デンマークの国境設定一〇〇周年に寄せて……村井誠人

『コラム』清末民国期の地方史編纂——地域と宗族を記録すること……山田 賢

日本近世地誌の編纂と地名記載……白井哲哉

編集後記……小二田 章



『新增東國輿地勝覧』

定価 二,二〇〇円(税込)  
本体 三,〇〇〇円  
A5判並製カバー装・二八八頁  
二〇二一年八月刊行  
ISBN978-4-585-32505-5 C1322

書名	部数
<b>書物のなかの近世国家</b> 東アジア「一統志」の時代 【アジア遊学 259】 小二田 章・高井康典行・吉野正史 〔編〕	定価 3,300円(税込)・本体 3,000円 A5判並製カバー装・288頁 2021年8月刊行 ISBN978-4-585-32505-5 C1322
ご送付先ご住所 (通信欄)	

# アヘンからよむ アジア史

アジア遊学 260

定価二一、〇八〇円(税込)  
本体二八〇〇円

A5判並製カバー装・二五六頁  
二〇二一年九月刊行  
ISBN978-4-585-32506-2 C1320

## 内田知行 権 寧俊

〔編〕



〔目次〕

まえがき…内田知行

### I アヘンをめぐる近代アジアと西洋

アヘンをめぐるアジア三角貿易とアヘン戦争…権 寧俊  
オランダ領東インドとイギリス領マラヤにおけるアヘン問題…大久保翔平  
「コラム」十八世紀以前のアジアにおけるアヘン…大久保翔平  
フランス領インドシナのアヘン…関本紀子  
「コラム」イギリス領インドとアヘン…杉本 淨

### II 日本植民地・占領地のアヘン問題

植民地台湾のアヘンと国際アヘン問題…崔 学松  
植民地朝鮮におけるアヘン政策…権 寧俊  
関東州及び満洲国のアヘン政策…朴 敬玉  
蒙疆政権のアヘン…堀井弘一郎  
「コラム」満蒙「蒙疆」とはどこか?…堀井弘一郎  
「コラム」東亜同文書院生の大旅行誌  
—一〇〇年前の学生フィールドワーク…関本紀子  
裁かれた日本のアヘン・麻薬政策…小林元裕

### III 現代の薬物問題

現代日本の薬物問題…真殿仁美  
「コラム」多様な視点が求められる日本の薬物防止教育…真殿仁美  
— 中華人民共和国の薬物問題  
— 国際社会における薬物を取り巻く動きが変化するなかで…真殿仁美  
「コラム」ネットワーク化する中国の薬物犯罪組織  
— 対岸の火事ではない…真殿仁美  
「コラム」韓国芸能界の大麻問題…権 寧俊  
「コラム」ベトナムの薬物汚染事情…関本紀子  
現アフガニスタンのアヘン問題…内田知行  
なぜ自然保護区は麻薬取引を助長するのか  
— 中米コスタリカの事例から…武田 淳

あとがき…内田知行

知られざる、  
薬物と国家権力の関係

嗜好品・薬剤・媚薬として

古くから人々に摂取されてきたアヘンは、

主要財源として、東インド会社の世界進出を支え、

戦前戦中は日本の統治者を魅了した。

アヘンはいかにしてアジア諸国を蹂躪したのか?

植民地統治の影に隠された二律背反の国家戦略とは?

複雑な交易ネットワークと官僚、商人、兵士、

民間人による生産・流通・消費の実態を示し、

また、現代にもつながらアヘン中毒、密輸入、

腐敗政治といった負の側面にも着目しながら、

植民地統治と近代的な経済発展の過程を

通史的に描き出す。

〔編者紹介〕

**内田知行** (うちだ ともゆき)

大東文化大学名誉教授。専門は中国近現代史。著書に『黄土の大地一九三七—一九四五—山西省占領地の社会経済史』(創土社、二〇〇五年)、『歴史家が語るガイドブックにはない世界の旅』(創土社、二〇一七年)など。

**権 寧俊** (こん ねいじゅん)

新潟県立大学国際地域学部教授。専門は東アジア国際関係史、国際社会学。著書に『歴史・文化からみる東アジア共同体』(編著、創土社、二〇一五年)、『朴槿恵「阿片帝国日本と朝鮮人」』(小林元裕、吉澤文寿と共訳、岩波書店、二〇一八年)など。



書名	部数
アヘンからよむアジア史 [アジア遊学 260] 内田知行・権寧俊 [編]	部
定価3,080円(税込)・本体2,800円 A5判並製カバー装・256頁 2021年9月刊行 ISBN978-4-585-32506-2 C1320	
ご送付先ご住所 (通信欄)	

# 古典は遺産か？

アジア遊学 261

日本文学にみける  
テキスト遺産の利用と再創造

Edoardo GERLINI [編]  
河野貴美子

定価 二,〇八〇円(税込)  
本体 二,八〇〇円

A5判並製カバー装・240頁  
二〇二一年十月刊行  
ISBN978-4-585-32507-9 C1395

古典テキストが伝える  
人々の営為

人びとが過去から現在へと紡ぎ、  
伝えてきたテキスト——「古典」。

古典を「遺産」という概念から捉えかえし、  
所有性、作者性、真正性の観点から  
テキストそのものや、

それらにまつわる行為や意識を歴史的に考察。

さらに、古典と社会との関係性を照らし出す

「テキスト遺産」という概念のポテンシャルを、  
文学研究と経済学・文化交流史など

諸分野の視角を重ね合わせるにより提示。  
文字と書物の文化研究を

新たなステージへと領導する画期的成果。

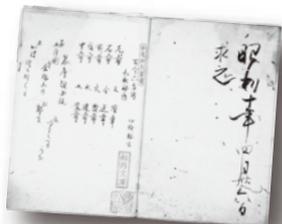
【編者紹介】

Edoardo GERLINI (エドアルド・ジェルリーニ)

ヴェネツィア・カフオスカリ大学アジア・北アフリカ学科学研究員(兼 早稲田大学  
総合人文科学研究センター 角田柳作記念国際日本学研究所招聘研究員)。  
専門は日本中古文(特に和歌と漢詩)、比較文学。

河野貴美子 (こうの きみこ)

早稲田大学文学学術院教授。専門は和漢比較文学、和漢古文文献研究。



【目次】

序言… Edoardo GERLINI

【緒論】なぜ「テキスト遺産」か… Edoardo GERLINI

I ● 所有性

書物およびテキストの所有性における奥書の役割について… 佐々木孝浩  
テキスト、パラテキスト、秘儀伝受  
—— テキストを所有するとはどのような行為なのか？… 海野圭介

光格天皇と本居宣長——御所伝受と出版メディアをめぐって… 盛田帝子  
【コラム】テキストの蒐集、収蔵、継承と「遺産化」のこと  
—— 王羲之の書を例として… 河野貴美子

II ● 作者性

物語における「作者」の発生… 兵藤裕己

近世中期における「テキスト遺産」と「作者」… 飯倉洋一

【コラム】「作者」はいつ成立するか——日本上代の事例から… 高松寿夫

III ● 真正性

『枕草子』におけるテキストの真正性… 陣野英則

古典的公共圏の春——西円の源氏注釈をめぐって… 前田雅之

近世日本における『蒙求』の音声化——漢字音と連続性… 山本嘉孝

【コラム】仏教経典テキストの真正性と享受者  
—— 古典文学テキストとのつながり… 阿部龍一

【特別寄稿】テキスト遺産としての古筆手鑑… Edward KAMENS

IV ● テキスト遺産の広がり

明石における龍宮イメージの形成

—— テキスト遺産としての『源氏物語』と『平家物語』をつなぐ夢… 荒木浩

【コラム】テキスト遺産としてのモニュメント  
—— 平時子の例… Roberta STRIPOLI

—— 文化政策の視点から… 佐野真由子

【コラム】日本の文化経済政策

—— テキスト遺産を中心にみる現状と課題… 林原行雄

蜘蛛の巣としての電子テキスト——その来歴と現在… 稲賀繁美

テキスト遺産とは何か… Edoardo GERLINI・河野貴美子

あとがき… 河野貴美子

書名	部数
<b>古典は遺産か？</b> 日本文学にみけるテキスト遺産の利用と再創造 Edoardo GERLINI・河野貴美子 [編]	定価 3,080円(税込)・本体 2,800円 A5判並製カバー装・240頁 2021年10月刊行 ISBN978-4-585-32507-9 C1395
ご送付先ご住所 (通信欄)	

# 怪異学講義

王権・信仰・いとなみ

東アジア恠異学会〔編〕

この世の「不思議」を

解き明かす

神霊・崇り・天変地異……

古来、人々が畏怖を抱き、不思議だと思ひ、  
息災を祈つた非日常的なコト・モノは媒介者により  
どのように言語化され、表現され、  
今日まで伝わってきたのか——

古記録や歴史書、説話、伝承、絵画といった  
あらゆる資料を渉猟し、  
王権・政治・祭祀・信仰・寺社・都市・村・  
生活・暮らしなど多様なテーマから、  
「怪異」とそれに対する人々の営みを読み解いた  
画期的入門書。

【編者紹介】

東アジア恠異学会

二〇〇一年創立。代表は大江篤（園田学園女子大学教授）。  
学会編著書として、『怪異学の地平』（臨川書店、二〇一九年）、『怪異を媒介するもの』（『アジア遊学』一八七号、勉誠出版、二〇一五年）、『怪異学入門』（岩田書院、二〇二二年）、『怪異学の可能性』（角川書店、二〇〇九年）などがある。

【目次】

序論 怪異学の視点…大江篤

総論 怪異学とは何か

日本の怪異・中国の怪異・その西方の驚異…榎村寛之  
国家統治と怪異…久禮旦雄  
通俗信仰と怪異  
——前近代中国の基層社会における災異受容史…佐々木聡

各論 怪異から考える

第一部 王権と怪異…久禮旦雄

社寺と怪異——春日社の山木枯槁を中心に…山田雄司  
奇談と武家伝——雷になった松江藩家老について…南郷晃子  
鎌倉幕府と怪異——『吾妻鏡』の怪異を読む…赤澤春彦  
幕末の陰陽頭・朝廷と天変…杉岳志  
【コラム】古代日本への「天」の思想の伝来…細井浩志

第二部 信仰と怪異…久留島元・佐々木聡

勝利に導く祖霊…佐藤信弥  
霊験・神異・感通  
——中国仏教における怪異なるものへの態度…佐野誠子  
道教と神降ろし…山田明広  
天狗信仰と文芸…久留島元  
疫病と化物…笹方政紀  
【コラム】崇る「水子霊」…陳宣聿

第三部 人のいとなみと怪異…木場貴俊

村と怪異…木下浩  
近世京都の小社と怪異…村上紀夫  
怪物を食らう…木場貴俊  
絵巻の中の神と「モノ」  
——目に見えぬものをいかに描くか…山本陽子  
【コラム】石を降らせるのはなにか？…化野 燐

あとがき…大江篤

定価 **3,520** 円(税込)  
[本体3,200円]  
四六判・並製カバー装・416頁  
ISBN978-4-585-32007-4 C0021  
2021年10月刊行

書名	部数
怪異学講義 王権・信仰・いとなみ 東アジア恠異学会〔編〕	部
定価 <b>3,520</b> 円(税込) [本体3,200円] 四六判・並製カバー装・416頁 ISBN978-4-585-32007-4 C0021 2021年10月刊行	
ご送付先ご住所（通信欄）	

幕末以降所在不明であつた  
最古級の『論語』注釈写本が再発見された――  
慶應義塾大学図書館蔵『論語疏』巻六である。

慶應義塾図書館蔵

# 論語疏 卷六

ろんごをまきろく

慶應義塾大学

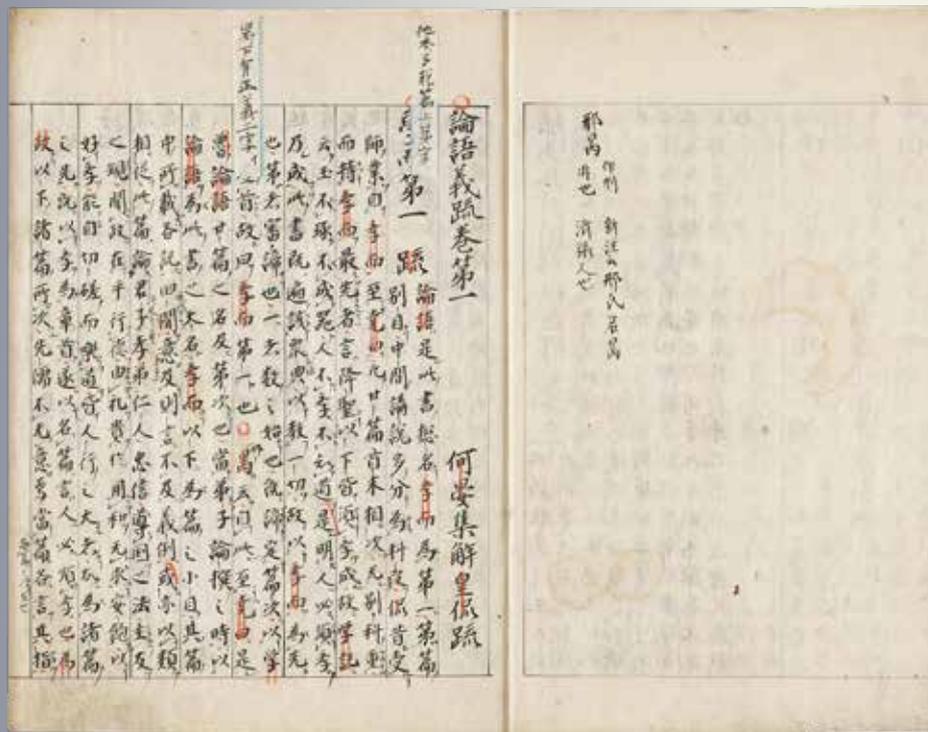
附属研究所斯道文庫蔵

# 論語義疏

ろんごぎと

影印と解題研究

慶應義塾大学論語疏研究会(編)



国宝級の  
最古写本の全編を  
原寸原色にて  
提供する決定版！

本体一八、〇〇〇円(十税)

A4判・上製一函入・四八〇頁

二〇二一年一〇月刊行

ISBN978-4-585-31004-4 C3010

勉誠出版

# 論語義疏 卷六

慶應義塾大学  
附属研究所斯道文庫蔵  
論語義疏

慶應義塾大学  
論語疏研究会〔編〕

## 影印と解題研究

本体18,000円(+税)  
A4判・上製函入  
480頁(カラー336頁)  
2021年10月刊行  
ISBN978-4-585-31004-4 C3010

ご送付先ご住所(通信欄)

ご注文部数

貴店番線印

### 勉誠出版

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-18-4  
TEL.03-5215-9021 FAX.03-5215-9025  
Website=http://bensei.jp  
Email=info@bensei.jp

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店、あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。

慶應義塾図書館蔵

# 論語義疏 卷六

〔論語〕子罕篇と郷党篇(通行本巻五)の、ほぼ全文を伝える中国写本。字体、字様などの書写相や、装訂、紙質など書籍形態の比較検討から、原著成立から一〇〇年を経ない時期の写本と目され、最古級の伝本と位置付けられる。また、平安時代の日本の印記がありそれ以前に伝来した点にも価値がある。古代以来、朝廷周辺で秘蔵された文献である様相も有する、日本漢学の淵源となった書籍として歴史の意義も備わる。

慶應義塾大学  
附属研究所斯道文庫蔵

# 論語義疏

文明十九年書写。『論語』の室町期写本群の中でも、最も整った姿を備える伝本。室町期特有の略字体を有し、全編を通じて統一した訓点を施した特徴をもつ。また、慶應義塾図書館蔵『論語疏』巻六との対校によって、その本文の価値が確かめられることから、『論語』二十篇を完存する『義疏』室町写本群研究に大きく寄与する。

## 国宝級の最古写本の全編を 原寸原色にて提供する決定版！

東アジア漢字文化圏の古典として広く諸国・諸地域の文化・思想に大きく影響を与えた『論語』。二〇一七年、幕末以降所蔵不明であった最古級の『論語』注釈写本である『論語疏』が日本国内において再発見され、二〇二〇年には展示公開、広く報道がなされた。

慶應義塾大学図書館蔵『論語疏』巻六である。

同書は南北朝から隋時代(六〜七世紀初頭)における中国写本であり、『論語』およびその注釈として、さらには同時代の写本として類を見ない逸品である。本書では、同『論語疏』の全編をフルカラー原寸大で影印、初公開する。

さらには、室町期の写本群のなかでも、最も整った完本である、慶應義塾大学附属研究所斯道文庫蔵『論語義疏』(文明十九年書写大槻本)の全編もフルカラーで影印。斯界の第一線をリードする研究者による詳細な解題・翻刻・校勘記を備えた決定版。

### 【目次】

前言：佐藤道生

### ● 影印

慶應義塾図書館蔵 〔南北朝末隋〕写本『論語疏』巻六

慶應義塾大学 斯道文庫蔵 文明十九年写本『論語義疏』

### ● 解題研究

慶應義塾図書館蔵 〔南北朝末隋〕写本『論語疏』巻六 解題：住吉朋彦

附 橋本経亮編『遠年紙譜』所収「皇侃義疏料紙」について：一戸渉

慶應義塾図書館蔵 〔南北朝末隋〕寫本『論語疏』巻六 翻印並に校記：種村和史

附 慶應義塾大学図書館蔵 『論語疏』巻六 校記舉例 義疏の部：種村和史

慶應義塾図書館蔵 〔南北朝末隋〕写本『論語疏』巻六 清家文庫本校記：齋藤慎一郎

附 慶應義塾図書館蔵 『論語疏』巻六の文献価値

——日本漢学研究資料としての特色：齋藤慎一郎

慶應義塾大学 斯道文庫蔵 文明十九年写本『論語義疏』 解題：住吉朋彦

附 慶應義塾大学 附属研究所 斯道文庫蔵 旧鈔『論語義疏』伝本解題：住吉朋彦

# 資料論がひらく 軍記・合戦図の世界

アジア遊学 262

井上泰至 [編]

理文融合型資料論と史学・文学の交差

【目次】

カラー口絵

序文：井上泰至

一 ● 理文融合型資料論の実践

コディコロジー(文理融合型総合典籍学)の実践(基調講演)：石塚晴通

「コメント」：佐々木孝浩

『聚楽行幸記』の写本学：竹内洪介

「コメント」：佐々木孝浩・堀新

豊臣秀吉冊封関連史料に紙質から迫る

——三通の明国兵部御付原本の検討：須田牧子

「コメント」：佐々木孝浩・堀新

計量テキスト分析を用いた戦国軍記の分類：山本洋

「コメント」：湯浅佳子・入口敦志

デジタル技術による合戦図屏風の再生

——大坂冬の陣図屏風 模本のデジタル想定復元について：薄田大輔

「コメント」：湯浅佳子・黒田智・入口敦志

草双紙における上紙摺の意義：佐藤悟

近世彩色絵画資料における色材の分析：日比谷孟俊・大和あすか

二 ● 史学と文学研究の交差 —— 十七世紀の軍記と関連資料への視座

山内首藤氏の「討死」と『平治物語』『平治物語絵巻』『平治合戦図屏風』：川合康

天正十六年『聚楽行幸記』の成立について：遠藤珠紀

古活字版『帝鑑図説』再考 —— 『帝鑑図説』は本当に(秀頼版)か：高木浩明

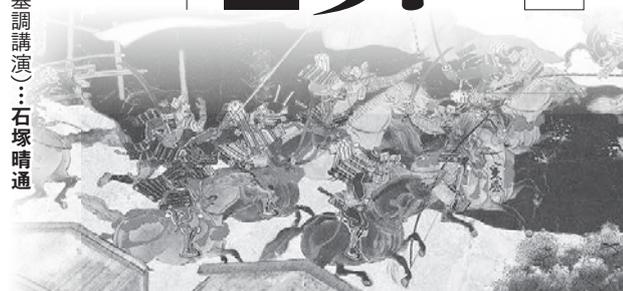
南庵『信長記』とその周辺 —— 『太平記秘伝理尽抄』との関わり：湯浅佳子

『慶長治乱記』にみる関ヶ原合戦軍記の展開：林晃弘

三 ● 兵学と有職学 —— 十九世紀の軍記と関連資料の展開

田安宗武の武家故実研究 —— 『軍器摘要抄』をめぐって：高松亮太

旧海軍兵学校蔵鷲見文庫『兵家系図』をめぐって：井上泰至



【編者紹介】

井上泰至 (いのうえ やすし)

防衛大学教授。専門は日本近世文学。

主な著書に『近世刊行軍書論』(笠間書院、二〇一四年)、『近世日本の歴史叙述と対意識』(編著、勉誠出版、二〇一六年)、『関ヶ原はいかに語られたか』(編著、勉誠出版、二〇一七年)、『関ヶ原合戦を読む——慶長軍記 翻刻・解説』(勉誠出版、二〇一八年)などがある。



定価 三,520円(税込)・本体三,200円  
A5判並製カバー装・口絵12頁+本文224頁  
二〇二一年十月刊行  
ISBN978-4-585-32508-6 C1321

書名	資料論がひらく軍記・合戦図の世界 理文融合型資料論と史学・文学の交差 【アジア遊学 262】	部数	部
価格	定価 3,520円(税込)・本体3,200円		
内容	A5判並製カバー装・口絵12頁+本文224頁 2021年10月刊行 ISBN978-4-585-32508-6 C1321		
送料	ご送付先ご住所(通信欄)		

西川武臣〔著〕

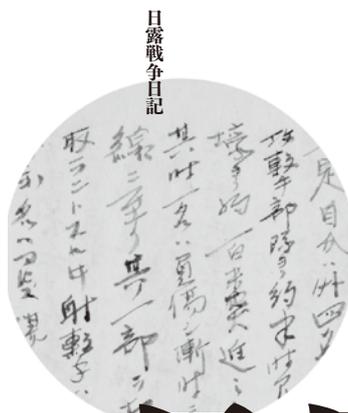
一九五五年愛知県生まれ。明治大学大学院文学研究科史学専攻博士前期課程修了。博士（史学）。専門は日本近世・近代史。現在、横浜開港資料館館長。主な著書に『リー来航』中公新書（二〇一六年）『幕末・明治の国際市場と日本』雄山閣出版（一九九七年）『神奈川県の歴史（第二版）』共著、山川出版社（二〇一三年）『横浜開港と交通の近代化』日本経済評論社（二〇〇四年）ほか多数。

# 従軍日記と

# 報道挿絵が

# 伝える庶民たちの

# 日露戦争



明治三十七（一九〇四）年、日露戦争勃発。

戦争は全国どこにもある、ありふれた農村で育った二十代の青年にも縁遠いものではなかった。

日露戦争の旅順攻囲戦に従軍した上等兵の出立、

戦地での戦闘と苦難、凱旋帰郷までを詳細に記述した、

一兵士が記録したのものとしては他に類を見ない豊富な内容を持つ従軍日記の全編を活字化し紹介。

また、詳細な挿絵により世界の最新ニュースを伝えたフランスの報道雑誌

『イリュストラシオン』より日露戦争関連の挿絵31点を抜粋・集成。

さらには、日露戦争当時に発刊され、絵画を交え人々に戦況を伝えた

『征露図会』から関連記事を抜粋し活字化。

当時の庶民たちが戦争に際し、何を感じ、何を考えたかを知るための貴重資料。

## 庶民にとって

## 近代化とは、戦争とは

## 何であったのか

定価 四、一八〇円（税込）

（本体三、八〇〇円）

A5判並製カバー装・240頁

二〇二一年十月刊行

ISBN978-4-585-32008-1 C1021



1904年3月12日号  
駅頭での出兵の光景

### 収録

第1部 日露戦争日記

第2部 フランスの挿絵新聞「イリュストラシオン」が伝えた日露戦争

第3部 「征露図会」・「凱旋図会」の記事から

[コラム1] アメリカ赤十字社員の日露戦争傷病兵の看護

[コラム2] イギリス王家の使節派遣

[コラム3] ヨーロッパ諸国での戦争報道

書名	部数
従軍日記と報道挿絵が伝える 庶民たちの日露戦争 西川武臣〔著〕	定価 4,180円・本体3,800円 A5判並製カバー装・240頁 2021年10月刊行 ISBN978-4-585-32008-1 C1021
ご送付先ご住所（通信欄）	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。  
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX 03-5215-9025

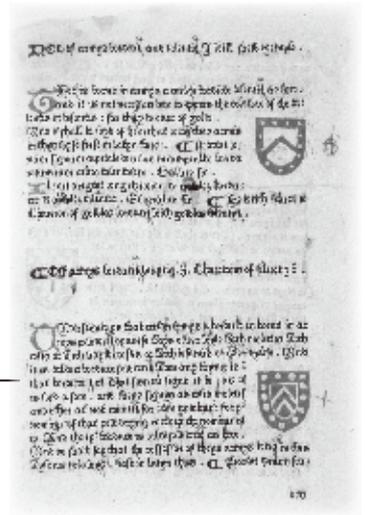
# 英国初期印刷本 研究への誘い

書誌学から文学・社会・歴史研究へ

向井 剛 [著]

## テキストは生きている——

英国初期印刷本(1475～1640年)の出版時、  
現代とは異なる本文意識、著者意識のもと、  
読者代表としての印刷家(植字工)による本文介入が行われ、  
テキストは活字により固定化されていった。  
『アーサーの死』・『セントオルバンズの手紙』・  
『トロイルスとクリセイデ』など10の実例をとおし、  
タイトルページの変遷、版の違い、本文異同と派生などを  
丹念に検討し、書誌学の立場から分析・解明する。  
作者—印刷家—読者の間で揺れる  
イギリス印刷黎明期の作品テキストの分析から、  
文学・文化・歴史研究の新たな領域をひらく快著。



### 【目次】

- はじめに 振り向きば未来——中世の本文意識
- 第1章 写本アンロジーから刊本合冊本へ  
——著者意識と「作品集」の誕生
- 第2章 タイトルページの変容  
——出版がサイオン修道院の壁を超える  
『良心の訓令集』(The Directory of Conscience, 1527年・1534?年) 考察
- 第3章 標題『アーサーの死』(Le Morte Darthur)の謎  
——W. コープランド版(1557年)を探る
- 第4章 領有されるテキスト  
——The Book of St. Albans(1486年)とThe Gentlemans Academie(1595年)
- 第5章 編者の読みとテキスト固定  
——空白のフォリオ番号から読むW. シン版(1532年)トロイルス物語
- 第6章 印刷家と作者の協働  
——『完徳への巡礼』(Pylgrimage of Perfeccyon, 1526年・1531年) 考察
- 第7章 初期印刷本期のテキスト編集  
——チョーサーのR. ピンソン版(1526?年)『鳥たちの議會』
- 第8章 キャクストン版『アーサーの死』(1485年)と印刷用原稿のゆくえ
- 第9章 ド・ウォード版マロリー(1498年)の本文挿入と奥書  
——読みのずらしと作品受容
- 第10章 W. スタンスビー版マロリー『アーサーの死』(1634年)  
——本文から序文を読みなおす

注  
図版出典一覧と再掲の謝辞  
文献案内  
初出一覧  
あとがき  
索引/人名・作品名索引/事項索引

### 【著者プロフィール】

向井 剛 (むかい つよし)

1952年生まれ。大阪教育大学大学院修士課程修了。長崎大学、鳴門教育大学を経て、福岡女子大学で教育研究活動。福岡女子大学名誉教授(2017年)。日本中世英語英文学会会長(2013-2015年)。現在、同大学学長。中世英語英文学(特にアーサー王物語)を研究対象とし、ホンダ・CR-Z、スバル・インプレッサ・スポーツを愛車とする。

定価 **6,600** 円 / 本体価格 6,000 円  
A5判上製カバー装・248頁+カラー口絵2頁  
ISBN978-4-585-32012-8 C3022  
2021年10月刊行

書名	部数
<b>英国初期印刷本研究への誘い</b> 書誌学から文学・社会・歴史研究へ  向井 剛 [著]	定価 <b>6,600</b> 円 / 本体価格 6,000 円 A5判・上製カバー装・248頁+カラー口絵2頁 2021年10月刊行 ISBN978-4-585-32012-8 C3022
ご送付先ご住所 (通信欄)	

小特集 伝・賛と肖像の文学史

本体 3,000円(+税)

A5判・並製・288頁

ISBN978-4-585-32461-4 C1320

2021年10月刊行

水門の会「編」

歴史文化研究の交流拠点、開港。

歴史学・文学・言語学・民俗学など諸学の粋を集め、ジャンルを越えた新たな学問世界への扉を開く。

水門  
言葉と歴史

もくじ

小特集 伝・賛と肖像の文学史

巻頭言「伝・賛と肖像」研究の可能性

——日本・イタリア・フランス国際共同シンポジウムを終えて◎藏中しのぶ  
禅と茶の湯——『禪茶録』にいたるまで◎フレデリック・ジラル

『唐才子伝』の排列構造◎三田明弘

『南総里見八犬伝』第九輯下帙之上口絵群第六図の「賛」と「肖像」

——曳手・単節姉妹の名詮自性を軸として◎安保博史

八犬仙の賛と肖像

——『南総里見八犬伝』八犬仙山中遊戯図と「七仏通戒偈」・『維摩経』◎藏中しのぶ

魚屋北溪画、桃契園真友狂歌・摺物「ゆや」攷

——摺物にみる謡曲「熊野」と狂歌◎高木ゆみ子

世良田東照宮蔵「三十六歌仙扁額」の後補本文

——「壬生忠岑」「大中臣頼基朝臣」の補修をめぐる◎オレグ・プリミアニ

馬の絵画と文学

——ステイペルト博物館蔵『馬毛同異図』をめぐる◎アントニオ・マニエリ

『訓蒙図彙』と『三才図会』の図像——『訓蒙図彙』初版本図像改変の手法◎楊世瑾

東大寺二月堂「青の階段」の吉祥文様と観音世界◎田中教子

宗祇と芭蕉——「時雨の翁」としての芭蕉像の成立をめぐる◎安保博史

講評「伝・肖像・讃」をまとめて考える◎相田満

講評 パリ国際大都市日本館主催日仏共同国際シンポジウム「日本文化における題画

文学——伝・賛と肖像の文学史・「茶の湯・香と座の文芸——江戸の絵入り百科事典

『茶譜』の世界◎トウンマン・武井典子

\* \* \*

鎌倉後期における「欄腰法」——無住道暁の周辺を中心に◎佐々木雷太

北岸佑吉旧蔵能楽写真等リスト——「関西の戦後二十年」を中心に◎関屋俊彦

大阪の宮武外骨◎浦和男

\* \* \*

『箋注倭名類聚抄』注釈・巻第一・天地部第一・景宿類一

「月」弦月◎洲脇武志／「暈」◎桑原一歌

「望月」◎恵阪由紀子／「蝕」◎丹羽雄一

\* \* \*

《研究ノート》『満洲語繙訳水滸傳』(Sui hu bithe)を扱って

——あしあとをたどりつつ◎寺村政男

『詩経』における漢語のオノマトペ——動物篇◎王則堯

AA研IRCにて公開した『清文集書』デジタル化資料について◎早田清冷

『唐話纂要』「常言」訳と「訳文筌蹄」題言十則——「雅と俗」の視点より◎耿蘭

彙報・編集後記◎安保博史・藏中しのぶ

書名	部数
水門 言葉と歴史 No.30	本体3,000円(+税)
水門の会「編」	A5判並製・360頁 2021年10月刊行 ISBN978-4-585-32461-4 C1320
ご送付先ご住所（通信欄）	

# 近代日本語教科書 語彙索引

伊藤孝行 [編]

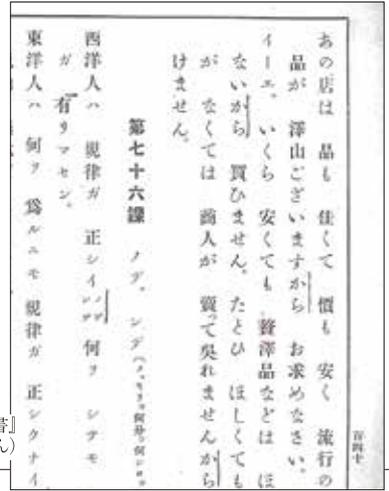
定価8,800円／本体価格8,000円  
A5判並製・376頁  
2021年10月刊行  
ISBN978-4-585-38002-3 C3081

## 近代日本語教科書には どのようなことばが取り上げられていたのか

明治期から戦中期にかけて日本国内外で刊行された日本語教科書は、刊行当時のことばが記録された「日本語史資料」として、また使用者のニーズを考慮しながら一定の規範となる日本語を映した「日本語教育史資料」として、日本語の歴史や教育の歴史を詳らかにする上で、看過することのできない重要な資料である。本書は、近代日本語教科書 10 種 15 冊の本文全文をテキスト化し、索引の見出し語として約 25,000 語を採用。

日本語史・日本語教育史をはじめとする諸分野研究に資する、近代語資料の隙間を埋める一冊。

宏文学院(1906)『日本語教科書』  
(本書には掲載しておりません)



### 【本書の特色】

▶明治期から戦中期までに刊行された日本語教科書10種15冊の本文全文をテキスト化し、それぞれの出現位置情報を明示。

#### ◎収録資料

- 金井保三(1904)『日語指南 壹』中国語母語話者向け
  - 金井保三(1905)『日語指南 貳』中国語母語話者向け
  - 宏文学院(1906)『日本語教科書 第一巻』中国語母語話者向け
  - 宏文学院(1906)『日本語教科書 第二巻』中国語母語話者向け
  - 宏文学院(1906)『日本語教科書 第三巻』中国語母語話者向け
  - 大宮貫三(1907)『日語活法』中国語母語話者向け
  - M. D. Berlitz(1919)『日本語教科書』英語母語話者向け
  - 東亜高等予備学校(1932)『日本語のはじめ一』中国語母語話者向け
  - 東亜高等予備学校(1932)『日本語のはじめ二』中国語母語話者向け
  - 東亜高等予備学校(1933)『日本語のはじめ三』中国語母語話者向け
  - 泉虎一(1938)『日暹会話便覧』タイ語母語話者向け
  - 三木栄(1940)『日泰会話』タイ語母語話者向け
  - モンコール・オンシクール(1941)『日泰会話』タイ語母語話者向け
  - 鉄道省国際観光局(1942)『日泰会話』タイ語母語話者向け
  - 国際文化振興会(1942)『NIPPONGO』タイ語母語話者向け
- ▶検索可能なテキストデータとしては未公開の資料群の語彙も検索可能。  
▶複合語は後項部(後項語)からも調べることが可能。

### 【編者プロフィール】

#### 伊藤孝行(いとう・たかゆき)

北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授。専門は国語学、日本語教育。國學院大學大学院文学研究科博士課程後期修了。博士(文学)。タイ国立タマサート大学外国人専任講師、財団法人交流協会(現:公益財団法人日本台湾交流協会)日本語専門家、名桜大学講師・准教授・上級准教授、北海道大学留学生センター准教授を経て現在に至る。

194	ソロエ【編】 [01-1] 82 [06] 16 ソロソロ【徐々】 [02-2] 126 [03] 93 ソロソロト [04] 131 ソロバン【算盤】 [01-1] 145, 149 ソソ【母】 [01-2] 81 [02-3] 136 [03] 127 [10] 177 ソソ【母】 [05-3] 15 ソソグイ【存外】 [02-3] 105, 126, 160 [05-3] 9 ソソグイ【尊敬】 [03] 158 [10] 185 ソソグイ【尊敬】 [10] 185 ソソグイ【御存知】 [03] 51 [02-1] 93 [09] 22 ソソグイ【母】 [10] 177 ソソグイ【存】 [02-1] 105, 142 [02-2] 27, 28, 56, 74 [02-3] 3, 138 [04] 109, 110, 112, 118, 126 [05-3] 15, 31 [06] 85, 26	【た】 タ【他】 [02-3] 11, 68, 144, 149, 156, 157 タ【母】 [03] 53 [10] 190 タース【算盤】 [05-2] 23, 55 [06] 15, 16 ターラング【単位】 [07] 127 タイ【母】 [07] 106 タイ【母】 [07] 111 タイ【母】 [07] 68 [09] 8, 55 タイ【母】 [06] 90, 92 タイ【母】 [02-1] 20 [07] 122 タイ【母】 [02-3] 27 タイ【母】 [06] 80, 103, 104 タイ【母】 [01-1] 83 [02-2] 73 [05-2] 23 [06] 48, 58, 73 [07] 107 タイ【大】 [01-2] 144 [02-1] 60, 62	タイク【体育】 [02-2] 72 タイクカイ【体育】 [02-1] 105 ダイチ【第一】 [02-1] 119 [02-3] 57, 63 [03] 119, 155 [04] 118 [05-3] 19 [06] 47, 72 [07] 99 ダイチジ【第一時】 [02-3] 157 ダイチジ【第一時】 [02-3] 157 ダイチモシ【第一】 [04] 53 ダイッセン【第一】 [05-3] 37 ダイッセン【第壹】 [07] 99 タイインレキ【太陰】 [06] 32 タイオンキ【体温】 [06] 58 タイオンケイ【体温】 [06] 58, 61 タイカイ【大会】 [02-3] 16, 67 [05-3] 19, 29 タイカイ【臨時大会】 [02-3] 67 タイカイ【大会】 [03] 97 タイカイ【大会】 [01-2] 1, 2, 162 [02-1] 29, 30
-----	--	--	--

書名	近代日本語教科書語彙索引	部数	
編者	伊藤孝行 [編]	定価	8,800円／本体価格8,000円
			A5判・並製・376頁 2021年10月刊行 ISBN978-4-585-38002-3 C3081
ご送付先ご住所(通信欄)			



# 既刊のご案内

\* 表示価格には別途消費税がかかります。  
\* ISBN は978-4-585を省略しています。

歴史

## 古代の日本と東アジア 人とモノの交流史

鈴木靖民〔著〕

東アジア諸国は如何に形成され、展開したのか。文献資料、最新の考古学的成果を博搜し、地政学、ヒト・モノ・文化の交流の視点より日本および東アジアの歴史的展開を浮き彫りにする、長年にわたり東アジア古代史研究を牽引する碩学による最新論集。

本体10,000円(+税)・A5判上製・472頁・ISBN22279-8・2020年7月刊行



## 新羅中古期の史的研究

武田幸男〔著〕

とくに飛躍的な発展を見せた新羅中古期(514~654年)を中心に考究。陸続と発見された各種の新羅碑文を諸史料とともに精緻に読み込むことにより、当時の激動する東アジアの国際関係における、新羅の史実態とその展開過程を明らかにする。

本体12,000円(+税)・A5判上製・568頁・ISBN22278-1・2020年7月刊行



## 金沢文庫古文書 喫茶関係編年資料集

永井晋〔編〕

中世東国の茶の歴史をいまに伝える史料が『金沢文庫古文書』のなかに多数存在する。同史料群より貴重史料三〇八通の翻刻と解説を行い、編年で配列、これまで見落とされてきた中世日本の茶をめぐる文化的広がりを明らかにする。

本体10,000円(+税)・A5判上製・376頁・ISBN22288-0・2020年9月刊行



## 古文書の様式と国際比較

小島道裕・田中大喜・荒木和憲〔編〕／国立歴史民俗博物館〔監修〕

古代から近世にいたる日本の古文書の様式と機能の変遷を通史的・総合的に論じ、また、文書体系を共有するアジア諸国の古文書と比較。掲載図版120点超！カラー口絵では、古文書の様式を分かりやすく図解。

本体7,800円(+税)・A5判上製・432頁・ISBN22272-9・2020年2月刊行

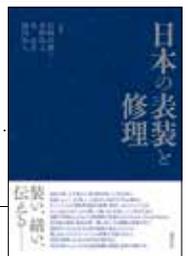


## 日本の表装と修理

岩崎奈緒子・中野慎之・森道彦・横内裕人〔編〕

絵画や書、古文書の表装や修理は、どのような価値観や思想のもとに行われてきたのか。残し伝えられてきた「モノ」との真摯な対話の中から、表装と修理にまつわる文化史を描き出し、今日の我々にとっての文化財保護の意義と意味を照射する。

本体7,000円(+税)・A5判上製・432頁・ISBN20073-4・2020年3月刊行



## 日本建築の歴史的評価とその保存

山岸常人〔著〕

歴史的建造物をどのように調査し、その特質を読み取るのか、どのように保存を行ってゆくべきなのか。長年にわたり調査・研究・保存に携わってきた知見より、歴史的建造物を保存し将来に伝えて行くための考え方や具体的な事例を提示する。

本体17,000円(+税)・B5判上製・672頁・ISBN22268-2・2020年2月刊行



## 近世大名墓の考古学 東アジア文化圏における思想と祭祀

松原典明〔編〕

幕藩体制の社会構造、地域の政治・経済・文化・信仰についての歴史的背景を解明するための重要な歴史資料、近世大名墓所を考古学として文献学の知見より多角的に検討し、近世武家社会における為政者の思想とその実践の諸相を明らかにする。

本体12,000円(+税)・B5判上製・336頁・ISBN22276-7・2020年6月刊行



## 生きるための地域史 東海地域の動態から

中村只吾・渡辺尚志[編]

日本列島の中央部に位置し、東日本と西日本をつなぐ東海道という大動脈が走る東海地域にスポットをあて、その地域の社会環境・自然環境と向き合って悩み、選択した人びとの営為を多面的に描き出す。

本体8,000円(+税)・A5判上製・304頁・ISBN22290-3・2020年10月刊行



## 日本近世社会と町役人

望月良親[著]

甲斐国の甲府町年寄を代々務めたとされる坂田家はどのようにして中世以来続く世襲町役人としての位置を確固たるものとし、近世社会を生きていったのだろうか。従来の文書等諸史料の博搜により解明し、新たな近世社会の様相を描き出す。

本体6,000円(+税)・A5判上製・256頁・ISBN22266-8・2020年2月刊行



## 近世豪商・豪農の〈家〉経営と書物受容

北奥地域の事例研究

鈴木淳世[著]

19世紀前半、相次ぐ飢饉や財政窮乏などの社会状況の変化に対し、中間層である豪商・豪農たちはどのように対応していったのか。彼らの思想の形成過程を蔵書体系や書物受容から探り、「知」との関わりを解明する。

本体10,000円(+税)・A5判上製・480頁・ISBN22265-1・2020年2月刊行

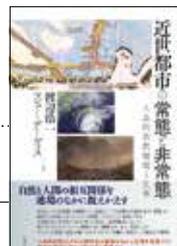


## 近世都市の常態と非常態 人為的自然環境と災害

渡辺浩一／マシュー・デーヴィス[編]

「水」に着目し、近世都市において、水がどのようなシステム・環境の元に制御され、災害によりどのような変化・対応を強いられたのかを、学融合・比較という観点から解明。人間社会の動態のなかに災害を位置づけ、環境史研究の新たな方法論を模索する。

本体7,000円(+税)・A5判上製・240頁・ISBN22267-5・2020年2月刊行



## 江戸庶民のまじない集覧 創意工夫による生き方の智恵

長友千代治[著]

疫病、災害、男女関係、不妊、子育て、疾病、寿命…江戸時代に出版・書写された資料を博搜、効能別に分類し、240点以上の図版とともに紹介する「まじない」百科事典！

本体6,000円(+税)・A5判上製・392頁・ISBN20076-5・2020年10月刊行



## 江戸日本橋商人の記録 〈にんべん〉伊勢屋高津伊兵衛家の古文書

澤登寛聡・筑後則[編]

享保改革期から田沼時代・寛政改革・文化期まで活躍し、320年の歴史の基礎を築いた高津家三代・四代当主の活動を克明に記した日記・文書、その思想・人生哲学を伝える史料を初めて翻刻、解題・通釈を付して公刊。商人・町人の暮らしを映し出す貴重資料。

本体11,000円(+税)・四六倍判上製・352頁・ISBN22269-9・2020年3月刊行



## 儒教儀礼と近世日本社会 閩齋学派の『家礼』実践

松川雅信[著]

近世日本社会において儒者達は、儒教儀礼、殊に『家礼』記載の喪祭礼をどのように捉え、実践しようとしたか。山崎闇斎を学祖とする閩齋学派に着目、思想と社会とが交錯する現場に立ち入り、従来、見落とされてきた近世日本儒教の新しい一面を照らし出す。

本体10,000円(+税)・A5判上製・440頁・ISBN21056-6・2020年7月刊行



## 甦る「豊後切支丹史料」 バチカン図書館所蔵マレガ氏収集文書より

松井洋子・佐藤孝之・松澤克行[編]

1942・46年に刊行されて以後、キリシタン研究に不可欠の基礎文献として用いられてきた『豊後切支丹史料』・『続豊後切支丹史料』。2011年バチカン図書館発見の両書の原史料に基づき、改めて忠実に校訂・翻刻。さらに関連する史料を併せて提供する。

本体12,000円(+税)・A5判上製・564頁・ISBN22261-3・2020年2月刊行



## 琉球船漂着者の「聞書」世界 『大島筆記』翻刻と研究

島村幸一[編]

『大島筆記』諸本のうち最も内容の備わった最善本を初めて全編翻刻、校異を付し、さらに琉球船の土佐への漂着に関する貴重資料『琉球船漂着記』『韓川筆話(抄)』『琉球人話』を収録。研究編として、論考六篇を収載した決定版。

本体10,000円(+税)・A5判上製・472頁・ISBN29197-8・2020年3月刊行



## 歴博甲本洛中洛外図屏風の研究

小谷量子[著]

芸術志向の近現代絵画とは異なる中世絵画の特徴をふまえ、歴博甲本に描かれた主題、注文者、そして作者を明らかにする。絵の中に巧に隠された「歌・物語」の中に、制作を命じた將軍のメッセージが残されている。

本体10,000円(+税)・A5判上製・524頁・ISBN22257-6・2020年2月刊行



## 挑発する軍記

大津雄一[著]

『平家物語』『太平記』などに代表される「いくさ」を描いた物語は、いまなお、なぜ読まれ、語り継がれていくのか。「死」と「生」の物語のもつ魅力と意義、そして可能性をあざやかに解き明かす。

本体3,800円(+税)・四六判上製・384頁・ISBN22292-7・2020年10月刊行



## 吉田松陰と学人たち

徳田武[著]

幕末の激動する国際状況の中で、学問を追求し、思索し、行動した学人たちとの多彩な交流から、松陰という人物の軌跡と精神の展開とを俯瞰する。日記をはじめとする諸資料を丹念に紐解き、松陰の一生に影響を与えた学人たちとの関係を追尋した快著。

本体10,000円(+税)・A5判上製・560頁・ISBN22291-0・2020年10月刊行



## 医学・科学・博物 東アジア古典籍の世界

陳捷[編]

医学・本草学・農学・科学に関する書物は、人びとの社会・生活に密着するものとして広く流通・展開している。これまで総合的に論じられることのなかった東アジアにおける情報伝達と文化交流の世界を、地域・文理の枠を越えて考究する画期的論集。

本体12,000円(+税)・A5判上製・456頁・ISBN20072-7・2020年2月刊行



## ロマノフ王朝時代の日露交流

東洋文庫・生田美智子[監修]／牧野元紀[編]

300年にわたるその栄枯盛衰の歩みには日本との重厚な交流の歴史があった。江戸時代以来、日露戦争を経て、ロシア革命前夜まで続いた日露関係の展開を、アジア関連資料の宝庫『東洋文庫』の珠玉の名品とともに探る。図版掲載点数200点以上!

本体3,800円(+税)・四六判上製・520頁・ISBN22286-6・2020年8月刊行



## スイス使節団が見た幕末の日本

ブレンワルド日記1862-1867

横浜市ふるさと歴史財団・ブレンワルド日記研究会〔編〕

スイスとの通商条約締結の過程や横浜での西洋人の生活、生麦事件発生当時の居留地の様子、幕末の外国商社の活動などを具体的に知ることができる一級資料であるブレンワルドの日記のうち1867年12月までのものを全編翻訳し初公開。図版点数111点！

本体9,800円(＋税)・A5判上製・570頁・ISBN22275-0・2020年6月刊行



## 幕末明治の社会変容と詩歌

青山英正〔著〕

前近代以来継承された伝統文芸としての和歌、そして明治十年代に欧米詩の模倣から始まった新体詩の展開を、前近代から近代へと続く史的展開のなかに位置づけ、政治史・社会史・文化史など複合的な視点から社会的行為としての文芸の営みを描き出す。

本体10,000円(＋税)・A5判上製・496頁・ISBN29196-1・2020年2月刊行



## 新彰義隊戦史 附・「彰義隊名鑑」「彰義隊文書」

大藏八郎〔編〕

彰義隊の歴史、隊士をはじめ、関連人物の人間像、そして映画・演劇・絵画などにおける受容などを幅広く紹介。さらに生存者と子孫の証言や一次資料、関連史料を解析し事実と照合。写真、図版200点余を駆使して彰義隊を可視化した永久版！

本体7,000円(＋税)・B5判上製・666頁・ISBN22285-9・2020年11月刊行



## 「本読み」の民俗誌 交差する文字と語り

川島秀一〔著〕

宗教的な講や田の水引きの農作業など村人が集まる機会に、独特の節回しで本を読んで聞かせる人びと、ホンヨミ。三陸地方を中心に、ホンヨミに触れてきた人びとへの直接の取材から浮かび上がる民俗社会を描き出す。

本体3,500円(＋税)・四六判上製・320頁・ISBN23081-6・2020年6月刊行



## 渋沢敬三とアチック・ミュージアム

知の共鳴が創り上げた人文学の理想郷

加藤幸治〔著〕

私設博物館兼研究所「アチック・ミュージアム」を開設した渋沢と、そこに集まった仲間たちの営為・思想から、人文学本来のかたちを体現する、学問を紐帯とした共同体の可能性と文化創造の在り方を探る。

本体3,500円(＋税)・四六判並製・364頁・ISBN22263-7・2020年1月刊行



## 司書のお仕事2 【ライブラリーぶっくす】

本との出会いを届けます

大橋崇行〔著〕 小曾川真貴〔監修〕

読めばわかる、司書の世界！！ 司書という職業の日常を、分かりやすいストーリー形式で解説。「除架と除籍」「行政支援レファレンス」等…、専門用語や業務を現役の司書が解説。各章末には仕事にまつわるコラムを附す。第1巻は好評重版出来！

本体1,800円(＋税)・四六判並製・208頁・ISBN20075-8・2020年11月刊行



## 荒れ野の六十年 東アジア世界の歴史地政学

與那覇潤〔著〕

東アジア世界が抱える摩擦の根源へ、古典と最新研究の双方を対照した先に見える新しい共存の地平とは。不毛な論争に終止符を打つ、気鋭の歴史学者による最後の論文集。

本体3,200円(＋税)・四六判上製・392頁・ISBN22264-4・2020年1月刊行



## 日本画の所在 東アジアの視点から

北澤憲昭・古田亮[編]

「日本画」はどこから来たのだろうか。そして、これからどこへ行くのだろうか…。〈歴史〉〈領域〉〈表現〉という3つの視点から、東アジアという場における「日本画」の形成・展開の諸相を歴史的・文化的に把握し、「日本画」の概念を未来へとひらく画期的成果。

本体6,500円(+税)・A5判上製・320頁・ISBN27055-3・2020年4月刊行

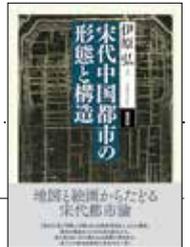


## 宋代中国都市の形態と構造

伊原弘[著]

宋代は中国の経済、文化が大きく発展した時代である。その結果、都市の構造や人々の生活も変化した。遺された貴重な地図や絵図などの史料を丹念に読み込み、唐と宋のあいだに横たわる画期を描き出す。

本体4,500円(+税)・A5判上製・360頁・ISBN22069-5・2020年6月刊行



## 描かれたマカオ ダーウェント・コレクションにみる東西交流の歴史

貴志俊彦・朱益宜・黄淑薇[編]

アヘン戦争などによって世界史がおおきく揺れた18～19世紀のマカオを描く版画・水彩画・写真などから当時のマカオの光と影を読み解くとともに、その未来像を探る。フルカラー・全編日英併記。

本体22,000円(+税)・A4判上製・238頁・ISBN22262-0・2020年2月刊行

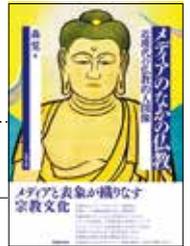


## メディアのなかの仏教 近現代の仏教的人間像

森覚[編]

メディアが生成した宗教表象を受容することで、人々は、どのような仏教文化を生み出したのか。社会的に生み出された文化的所産である仏教的人物像の性質と機能を明らかにし、仏教文化に見られるメディア表現の創造と受容の実態へ迫る。

本体7,500円(+税)・A5判上製・352頁・ISBN21054-2・2020年5月刊行



## 上海におけるプロテスタント

現代中国の都市と宗教空間をめぐる変遷

村上志保[著]

国家によって宗教活動に対する様々な制限を受けながらも、現代を生きる中国プロテスタントたちの姿を、経済都市上海での豊富なフィールドワークを通して描く。急速な経済発展と社会の変化が宗教に与える影響を明らかにする。

本体6,000円(+税)・A5判上製・320頁・ISBN21055-9・2020年5月刊行



## ナチズム・ホロコーストと戦後ドイツ

【現代ドイツへの視座—歴史学的アプローチ2】

石田勇治・川喜田敦子[編]

ナチズムと両義的近代との関係、「民族共同体」の様態、レーベンスラウムや民族再生の含意、さらにポーランド、スイスの動きなど近年の歴史学が提示する最新の論点を取り上げる。司法訴追、補償、想起の文化などに注目して多面的に検討する。

本体6,000円(+税)・A5判上製・384頁・ISBN22513-3・2020年9月刊行



## ドイツ市民社会の史的展開

【現代ドイツへの視座—歴史学的アプローチ3】

石田勇治・川喜田敦子・平松英人・辻英史[編]

「市民社会」に着目して、これが含意する意味内容の歴史的な変遷を追いながら、ドイツの国家と市民、国家と社会の関係がどのようなものであったかを検討する。そして、「市民社会」に関する日独比較の可能性も追究する。全3巻完結！

本体6,000円(+税)・A5判上製・368頁・ISBN22514-0・2020年9月刊行



## ポストコロナ時代の東アジア 【アジア遊学253】

新しい世界の国家・宗教・日常

玄武岩・藤野陽平[編]

日本・台湾・韓国・中国・香港は危機にどう対応したか。都市封鎖や各種の自粛措置、メディア戦略、「新しい生活様式」等の各国の政策から、疫病除けの妖怪「アマビエ」の流行、各国の宗教対策まで、メディア・社会・宗教など多様な視点から比較検証。

本体2,800円(+税)・A5判並製・272頁・ISBN22719-9・2020年10刊行



## 中世日本の茶と文化 【アジア遊学252】

生産・流通・消費をとらえて

永井晋[編]

称名寺に伝来した平安から室町までの茶に関する文献史料、各地の美術工芸品や考古資料などの諸資料を丹念に紐解き、考古学・農業学・気候史・技術史・遺伝子学など様々な分野の視点なども交え、「茶の湯」・「茶道」成立以前の「中世の茶」をとらえ直す。

本体2,800円(+税)・A5判並製・240頁・ISBN22718-2・2020年9月刊行



## 仏教の東漸と西漸 【アジア遊学251】

荒見泰史[編]

さまざまな儀礼や経典、文学、図像を取り上げ、各時代の広い社会層における信仰・宗教の伝播と継承、衝突と融合の実態を東漸と西漸の双方向から考察し、新しい文化史を構築する。

本体2,800円(+税)・A5判並製・256頁・ISBN22717-5・2020年9月刊行



## 酔いの文化史 【アジア遊学250】

儀礼から病まで

伊藤信博[編]

醸造や酒宴の歴史から、食文化とのかかわり、文学・絵画における表象、アルコール依存症など現代的な問題まで、宗教的・社会的機能をもつ飲酒文化について、文学史・美術史・歴史学・食文化史など様々な分野から切り込む。

本体2,800円(+税)・A5判並製・256頁・ISBN22716-8・2020年8月刊行



## 漢学とは何か 【アジア遊学249】

漢唐および清中後期の学術世界

川原秀城[編]

現代の人文科学の領域を大きく凌駕する漢学のパースペクティブは、どのようにその対象を広げ、如何に事象を記述しようとしたのか。漢唐および清中後期の学術を多角的に分析し、歴代漢学の総覧を通して学的特徴とその限界について考察する。

本体2,800円(+税)・A5判並製・256頁・ISBN22715-1・2020年7月刊行



## 明治が歴史になったとき 【アジア遊学248】

史学史としての大久保利謙

佐藤雄基[編]

政治家、官僚、軍人などの個人文書を収集・公開する国立国会図書館憲政資料室の創設に関わり、数々の史料編纂等、研究のための整備に尽力した大久保利謙。その足跡を史学史・史料論・蔵書論の観点から検証し、日本近代史研究の誕生の瞬間を描く。

本体2,800円(+税)・A5判並製・240頁・ISBN22714-4・2020年6月刊行



## 書物学 第18巻 蔵書はめぐる

海外図書館の日本古典籍コレクション

編集部[編]

欧米の著名なコレクションから、ハワイ大学、ホノルル美術館、アメリカ議会図書館、UCバークレー、ケンブリッジ大学、オックスフォード大学の特徴ある蔵書を紹介。書物を集め、愛でた人々、海を越えて伝えられた蔵書に秘められたドラマを描き出す。

本体1,800円(+税)・B5判並製・120頁・ISBN20718-4・2019年7月刊行

